菊川市の教育を取り巻く現状と課題

菊川市教育委員会

目　　次

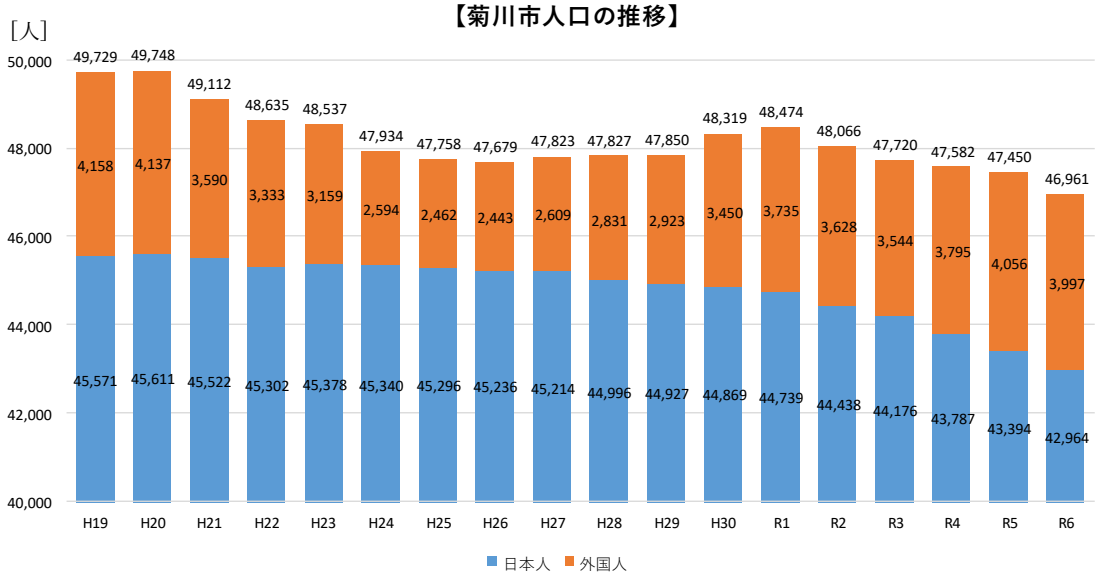
１　人口減少、少子高齢化など
(1) 菊川市人口の推移（日本人及び外国人）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
(2) 年齢別人口の推移　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
(3) ５歳階級別人口ピラミッド　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
(4) 国籍別外国人住民　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
(5) 子どもの数の推移　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３
(6) 自然動向（出生数及び死亡者数）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４
(7) 社会動向（転入及び転出者数）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４
(8) 菊川市の目標人口　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５
(9) 環境問題の深刻化　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５
２　幼児教育の状況
(1) 幼児施設園児数の推移　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６
(2) 認定区分別の園児数　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６
(3) ０歳から５歳児の推計　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７
３　学校教育環境の変化
(1) 児童・生徒数の推移　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８
(2) 特別支援学級の児童・生徒数の推移　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９
(3) 外国籍児童・生徒数の推移　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　10
(4) 学校規模（児童生徒数別）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　11
(5) 学校施設等の現状　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　12
(6) 学校給食の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　15
(7) 教職員の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　16
(8) 家庭への支援の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　16
(9) 子どものいる家庭の経済状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　17
(10) 貧困世帯の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　17
４　児童・生徒の状況の変化
(1) 学力及び学習の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　18
(2) 体力・運動能力の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　19
(3) 不登校及びいじめの状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　20
５　社会教育の状況
(1) 生涯学習の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　22
(2) 芸術文化の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　23
(3) 歴史・文化財の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　24
(4) スポーツの状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　26
(5) 社会教育施設の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　28
６　読書活動の状況
(1) 図書館の蔵書数及び利用状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　29
(2) 子ども読書活動の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　30
７　市民意識等の把握
(1) 市民の意識　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　31
(2) 保護者の意識　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　33
(3) こどもの意識　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　34

１．人口減少、少子高齢化など

(1) 菊川市人口の推移（日本人及び外国人）

本市の総人口は平成 20 年度の 49,748 人（H20. 11 月 49,971 人）をピークに減少傾向となり、平成 27 年度から一時増加傾向に転じましたが、近年では減少傾向が続き、令和６年度にはピーク時の約 94%となる 46,961 人となっています。日本人及び外国人の内訳を見ますと、日本人は平成 20 年度から減少が続いていますが、外国籍人口は、近年では平成 30 年度から増加傾向が続いています。

【菊川市人口の推移】

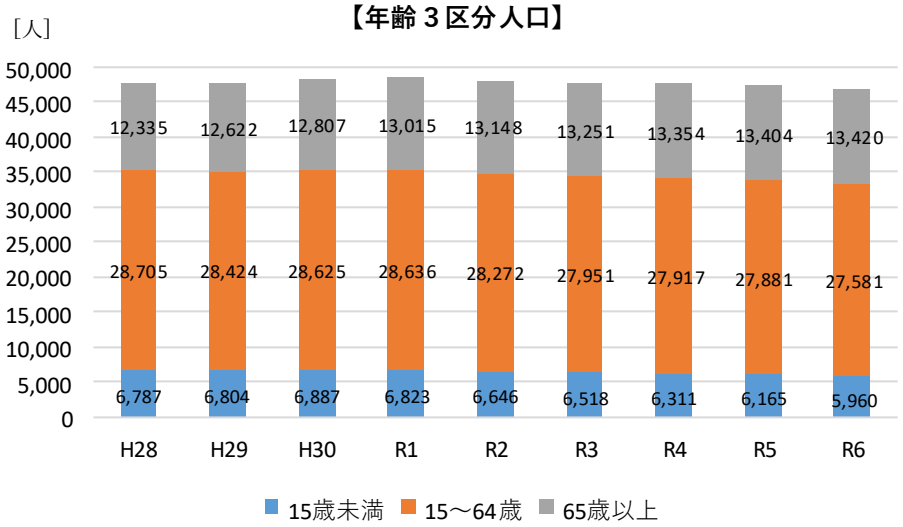


資料：住民基本台帳（各年度３月 31 日現在）

(2) 年齢別人口の推移

本市の年齢３区分別人口の推移を見ますと、０歳から 14 歳の年少人口は年々減少し、令和６年度末で 5,960 人となっています。また、生産年齢人口となる 15 歳から 64 歳の人口も年々減少しています。一方で老年人口となる 65 歳以上は年々増加を続け、令和６年度末には 13,420 人となり、人口全体の 28.6%の高齢化率となっています。

【年齢３区分人口】

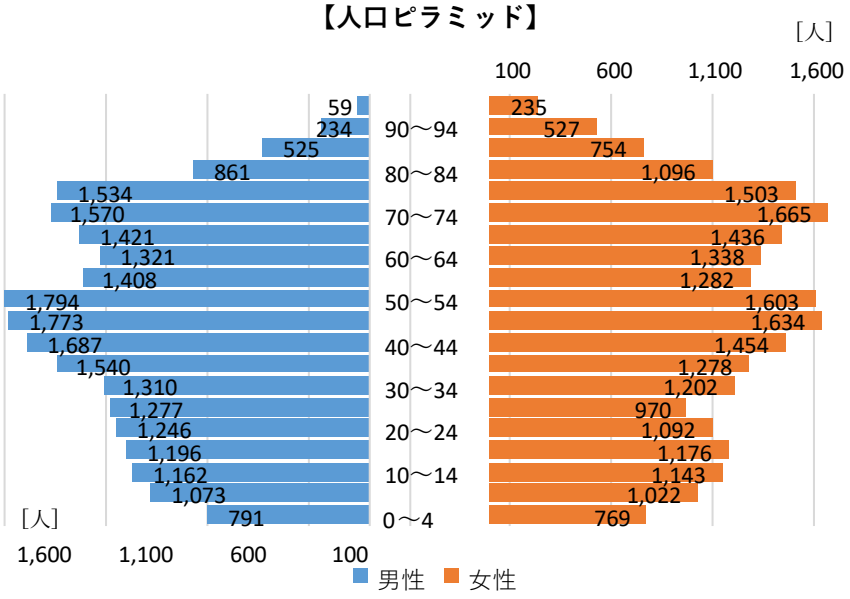


資料：住民基本台帳（各年度３月 31 日現在）

(3) ５歳階級別人口ピラミッド

菊川市の人口ピラミッドは、令和６年度末時点で概ね「つぼ型」となっています。５歳階級人口を見ますと 45 歳から 49 歳人口が最も多く、次いで 50 歳から 54 歳の人口が多くなっています。団塊の世代となる 70 歳から 74 歳の前期高齢者と第二次ベビーブームとなる団塊ジュニア世代の人口が多くなっています。

【人口ピラミッド】

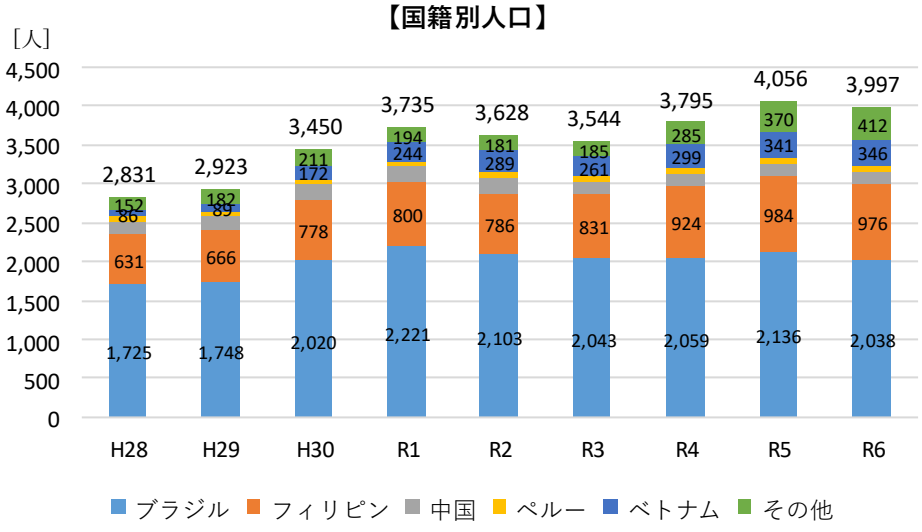


資料：住民基本台帳（令和７年３月 31 日現在）

(4) 国籍別外国人住民

菊川市における外国籍人口は年々上昇し、令和６年度には 3,997 人となっています。国籍別の内訳を見ますと、ブラジル国籍の人口が 2,038 人と最も多く、全体の約５割を占めています。その他としては、近年フィリピン国籍の人口が増加しており、全体の 24%となる 976 人となっています。

【国籍別人口】



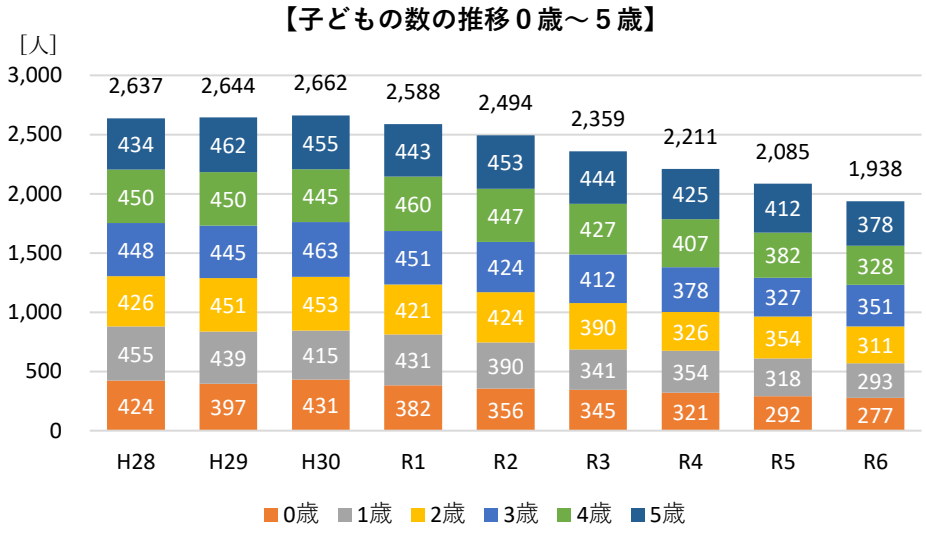
資料：住民基本台帳（令和７年３月 31 日現在）

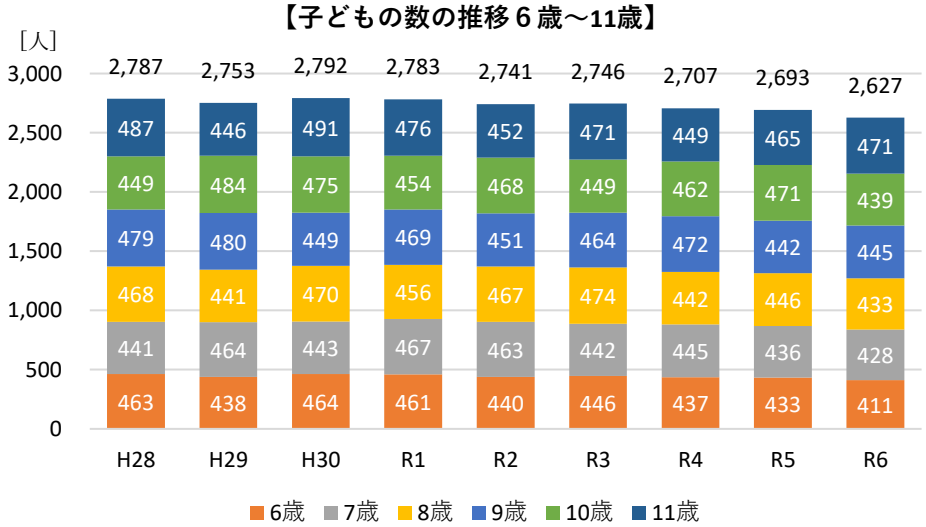
(5) 子どもの数の推移

本市の子どもの数の推移は以下のとおりとなっています。０歳から５歳（未就学世代）の子どもは、平成 30 年度まで各年代とも概ね 400 から 450 人の間で推移していましたが、令和元年度には０歳が 400 人未満となる 380 人となりました。その後、減少傾向が続き令和６年度には０歳から５歳まで全ての年代が 400 人未満となり、０歳及び１歳は 200 人台となりました。令和６年度の０歳から５歳の総数は、1,938 人となり平成 28 年度と比較すると 699 人減の 73.5%となっています。

６歳から 11 歳（小学校世代）の子どもの数は、各年代とも概ね 430 人から 480 人の間で推移しています。０歳から５歳の減少幅より少なくはありますが、年々減少しています。令和６年度の６歳から 11 歳の総数は、平成 28 年度と比較すると 160 人減の 94.3%となる 2,627 人となっています。しかしながら、０歳から５歳の減少率を見れば数年後には６歳から 11 歳も減少傾向が強くなるものと予想されます。

このように、子どもの減少により幼児教育や学校教育、社会教育など全ての教育行政に影響を与えるものと思われます。

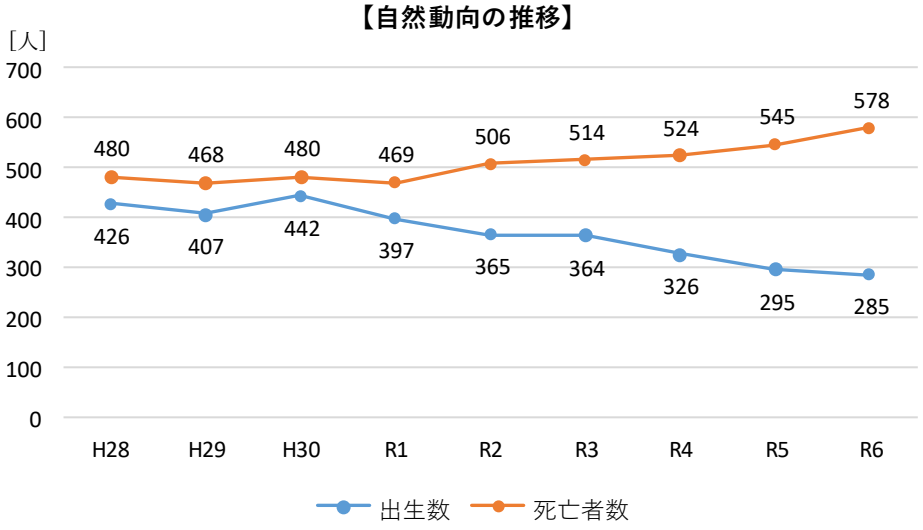




資料：住民基本台帳（各年度３月 31 日現在）

(6) 自然動向（出生数及び死亡者数）

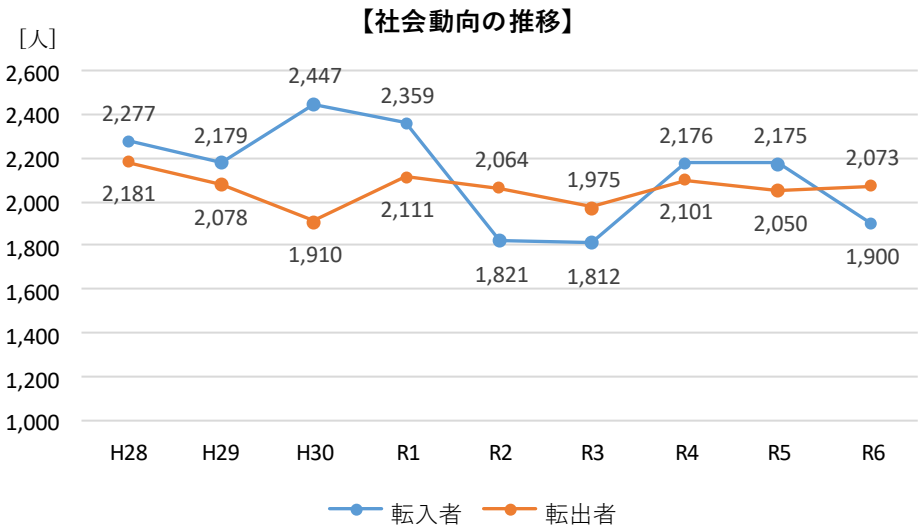
本市の自然動向を見ますと、死亡者数が増加しているに対し出生数が減少しています。このことにより年々自然減の状況が大きくなっています。平成 28 年度と比較しますと、死亡者数が約 1.2 倍、出生数が約３分の２となっています。自然動向だけを見ましても、今後の更なる人口減少が予想されます。



資料：菊川市データルーム（各年度３月 31 日現在）

(7) 社会動向（転入及び転出者数）

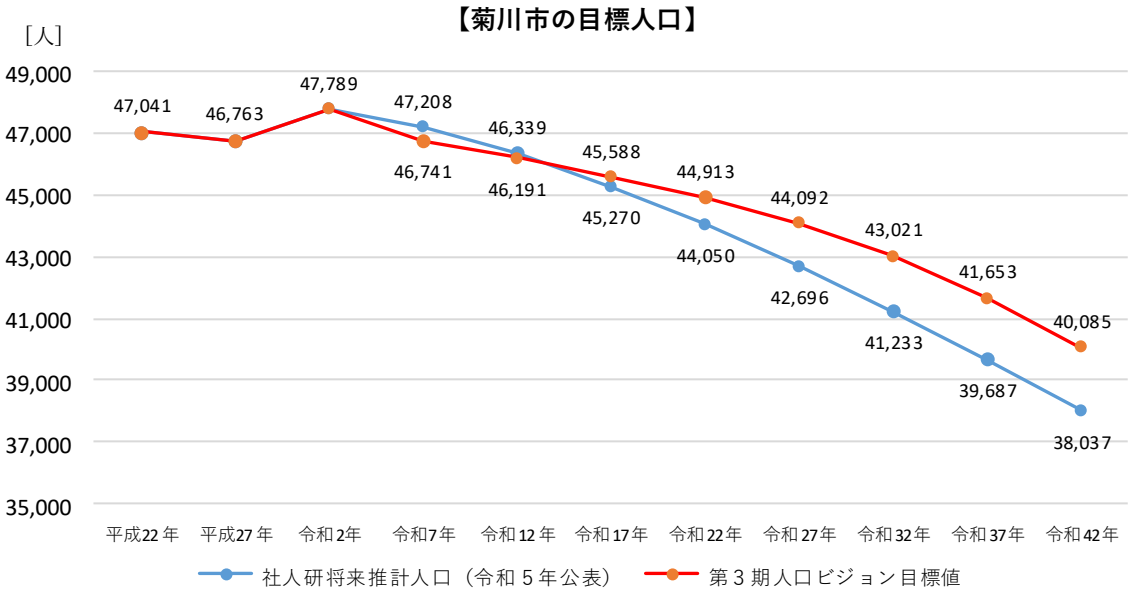
本市の社会動向を見ますと、転出者はおよそ 2,000 人前後の人数となっています。転入者は年によって変動が大きく 1,800 人から 2,500 人くらいの間で推移しています。令和６年度は、転入が 1,900 人、転出が 2,073 人と転出超過の状態となっています。



資料：菊川市データルーム（各年度３月 31 日現在）

(8) 菊川市の目標人口

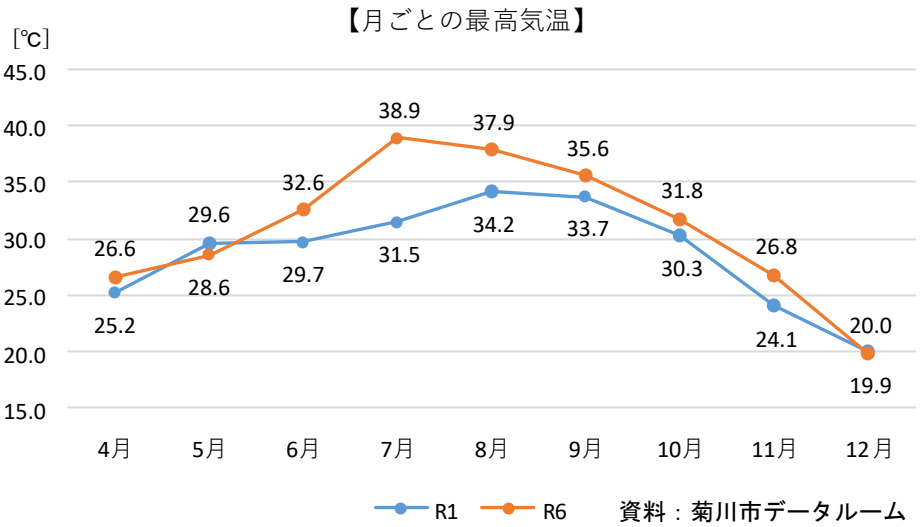
令和５年公表の国立社会保障人口問題研究所（社人研）における将来人口は、令和 42 年に 38,037 人となっています。出生率の緩和や出生数の減少を抑え、社会動向における移動率などを改善することで、令和 42 年の目標人口を 40,000 人としています。



資料：第３次菊川市総合計画

(9) 環境問題の深刻化

地球規模で温暖化が進行する中、集中豪雨等の異常気象により、土砂崩れや河川の氾濫などの大規模災害が全国で発生しており、また、二酸化炭素などの温室効果ガスを抑制するなど、地球温暖化防止に向けた取り組みが急務となっています。また、本市における最高気温も６月から 10 月まで 30 度を超える日が続くなど、教育行事や市民向けのイベントなどの実施などに影響を与えています。



資料：菊川市データルーム

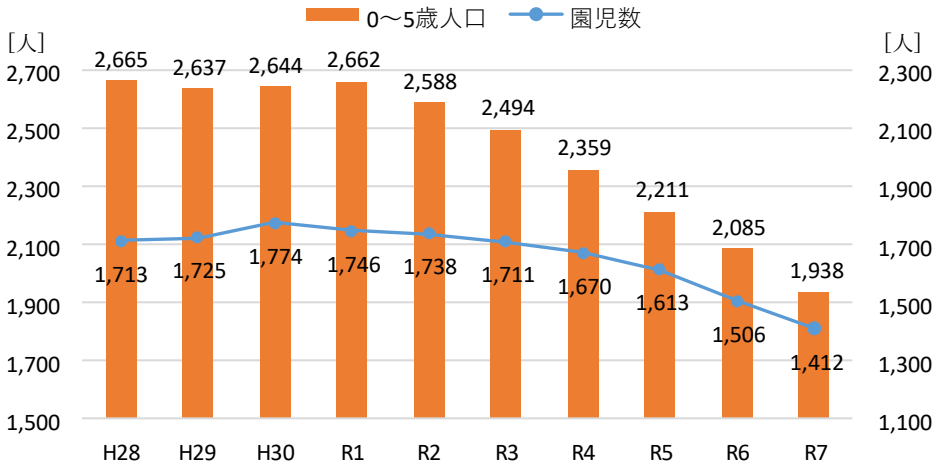
２．幼児教育の状況

(1) 幼児施設園児数の推移

幼児施設（保育園・認定こども園・小規模保育事業など）の園児数は、平成 30 年度の 1,774 人をピークに減少に転じ、令和 7 年度には 1,412 人とピーク時の約８割となっています。０歳から５歳人口に対する園児数の割合は、年々高くなっています。

今後の少子化の状況を見ますと更なる園児数の減少が予想されますが、人口に対する園児の割合は高くなるものと思われます。

【幼児施設園児数】



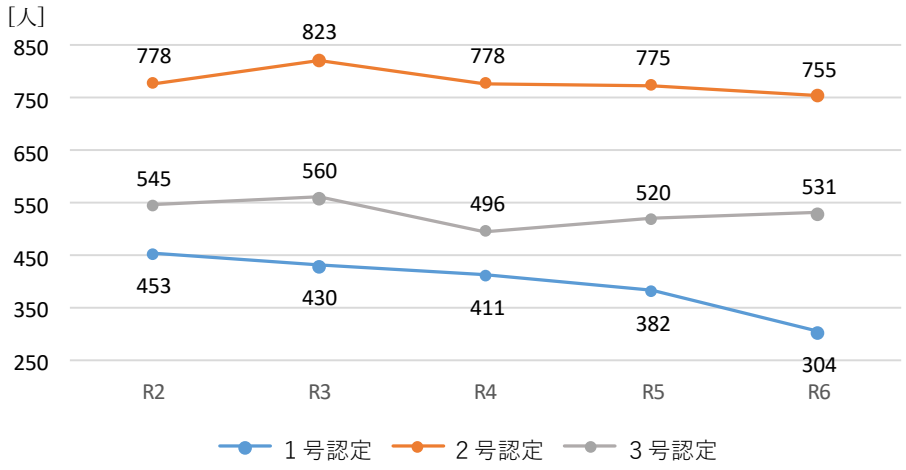
資料：園児数　こども政策課（各年度４月１日現在）

人口　住民基本台帳（各年３月 31 日現在）

(2) 認定区分別の園児数

認定区分ごとの幼児施設園児数は、以下のとおりとなっています。保育認定となる２号及び３号認定の園児数は、ほぼ横ばいの状況であり、保育希望の高い状況が続いています。しかし、教育認定となる１号認定の園児数は、減少を続けており、４年間で約３分の２の人数となっています。

【認定区分ごとの園児数】



資料：こども政策課（各年度３月 31 日現在）

【認定区分】

認定区分	要　　件	利用できる施設
１号認定	満３歳以上の小学校就学前の子どもであって、２号認定子ども以外のもの	幼稚園 認定こども園
２号認定	満３歳以上の小学校就学前の子どもであって、保護者の労働又は疾病その他の内閣府令で定める事由により家庭において必要な保育を受けることが困難であるもの	保育所 認定こども園
３号認定	満３歳未満の小学校就学前の子どもであって、保護者の労働又は疾病その他の内閣府令で定める事由により家庭において必要な保育を受けることが困難であるもの	保育所 認定こども園 小規模保育事業

資料：菊川市こども計画

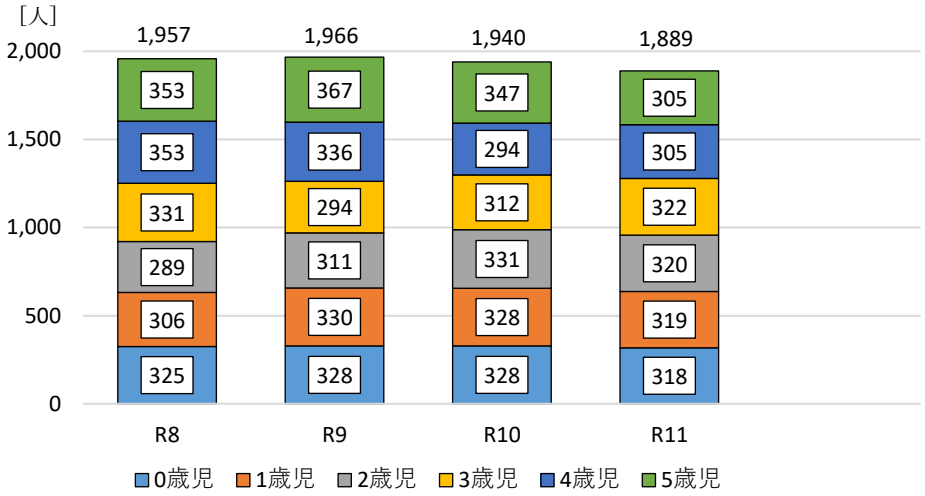
(3) ０歳から５歳児の推計

０歳から５歳児は、減少傾向が継続し、令和 11 年度には、1,889 人になる見込みです。

３歳から５歳児は、932 人となる見込みであり、減少を続けている１号認定児の更なる減少が予想されます。また、横ばいとなっている２号認定児の減少にも影響が出てくる可能性があります。

今後、出生数の減少を抑制するため、子育てしやすい環境として、乳幼児教育の果たす役割は重要になってきます。

【０歳から５歳児の推計】



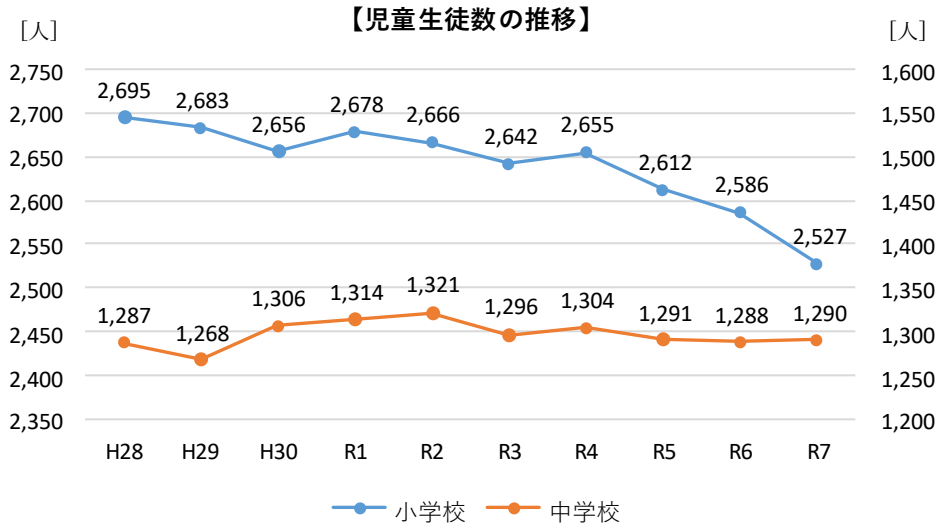
資料：菊川市こども計画

3．学校教育環境の変化

(1) 児童・生徒数の推移

小学校の児童数は減少を続けており、平成 28 年度と令和 7 年度を比較しますと 168 人の減少、約 94%となっています。中学校の生徒数は、減少傾向にはありますが、ここ数年は、ほぼ横ばいの状況が続いています。しかし、小学校児童数の減少を見ますと中学校生徒数も今後は減少していくことが予想されます。

学校別の児童生徒数を見てみますと、多くの学校は減少傾向にありますが、加茂小学校、堀之内小学校、菊川西中学校のように区画整理事業や宅地造成などの影響から児童数及び生徒数が増加している学校も見られます。



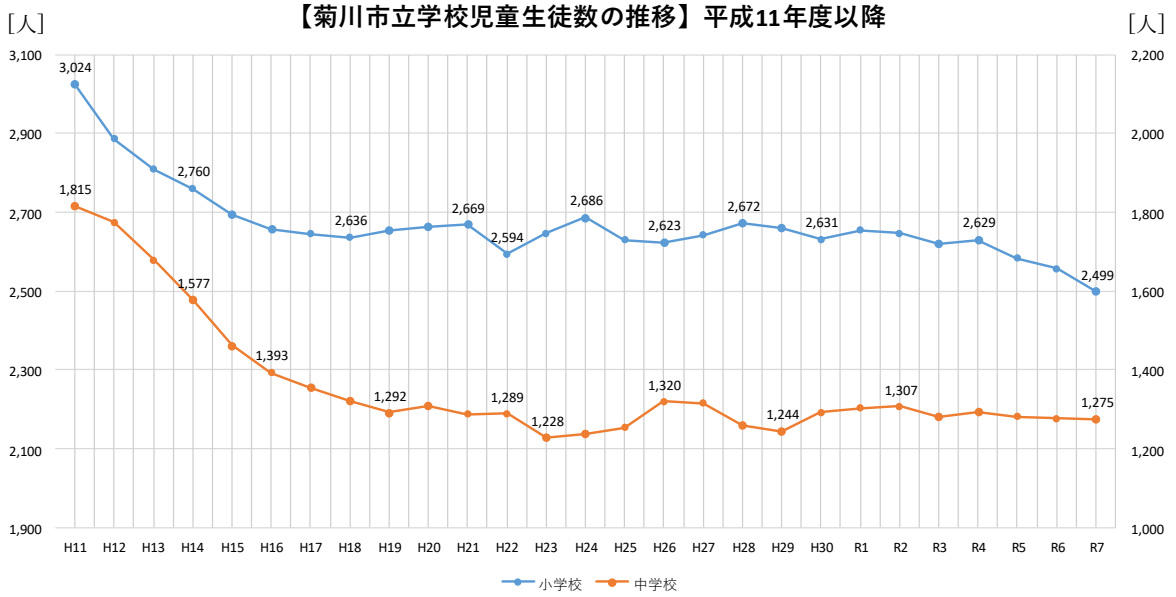
資料：学校基本調査（各年度５月１日現在）

【小学校別児童数】

学校名	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
小笠東小学校	285	259	261	228	234	223	212	211	210	196
小笠南小学校	149	162	154	148	143	140	142	132	128	125
小笠北小学校	370	366	378	401	375	398	392	386	377	353
六郷小学校	449	464	437	449	438	440	462	446	448	432
内田小学校	224	225	210	218	194	180	177	165	151	138
横地小学校	141	132	113	118	112	109	99	100	102	106
加茂小学校	402	394	423	440	481	470	473	501	499	515
堀之内小学校	366	382	383	390	402	404	416	408	408	402
河城小学校	286	277	272	263	267	257	256	234	234	232
牧之原小学校	23	22	25	23	20	21	26	29	29	28
合計	2,695	2,683	2,656	2,678	2,666	2,642	2,655	2,612	2,586	2,527

【中学校別児童数】

学校名	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
岳洋中学校	406	388	403	414	419	395	376	360	388	398
菊川西中学校	513	518	536	544	529	545	564	578	556	554
菊川東中学校	340	338	353	345	359	342	353	344	332	323
牧之原中学校	28	24	14	11	14	14	11	9	12	15
合計	1,287	1,268	1,306	1,314	1,321	1,296	1,304	1,291	1,288	1,290



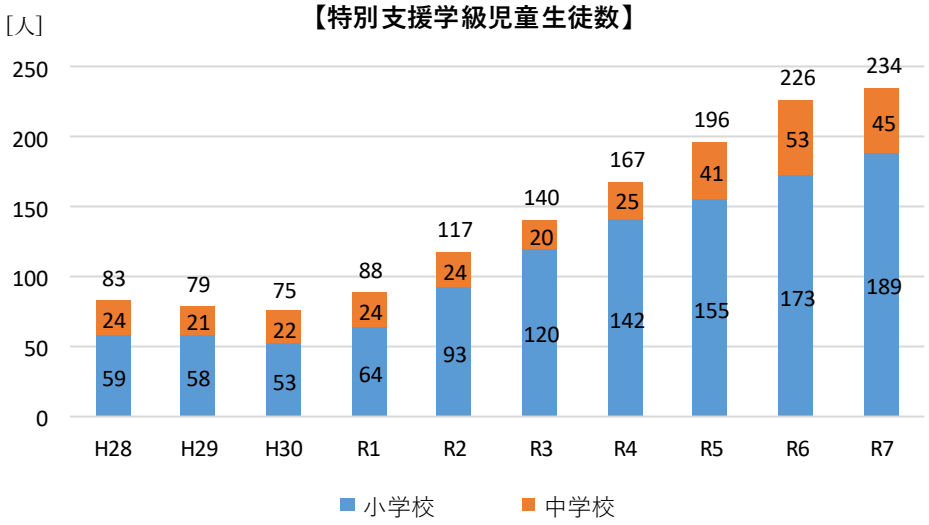
区　分	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
小学校	3,024	2,886	2,809	2,760	2,695	2,657	2,645	2,636	2,653	2,663	2,669	2,594	2,646
中学校	1,815	1,774	1,678	1,577	1,462	1,393	1,355	1,321	1,292	1,308	1,288	1,289	1,228
合　計	4,839	4,660	4,487	4,337	4,157	4,050	4,000	3,957	3,945	3,971	3,957	3,883	3,874

H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
2,686	2,630	2,623	2,642	2,672	2,661	2,631	2,655	2,646	2,621	2,629	2,583	2,557	2,499
1,237	1,254	1,320	1,316	1,259	1,244	1,292	1,303	1,307	1,282	1,293	1,282	1,276	1,275
3,923	3,884	3,943	3,958	3,931	3,905	3,923	3,958	3,953	3,903	3,922	3,865	3,833	3,774

資料：学校基本調査（牧之原小学校・中学校は含まない）

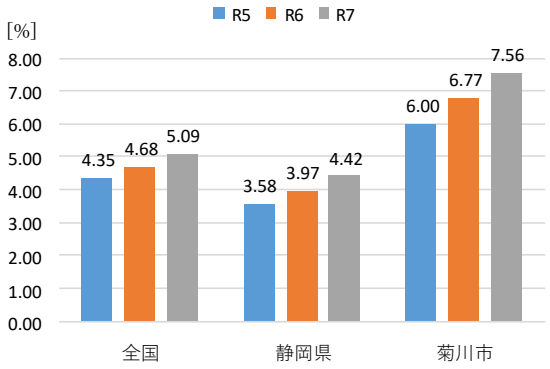
(2) 特別支援学級の児童・生徒数の推移

特別支援学級に在籍する児童生徒数は令和元年度から増加を続けています。平成 30 年度と比較すると、小中合計では約３倍、特に小学校においては、3.6 倍の人数となっています。児童生徒の割合は、全国、静岡県と比較すると小学校が高い状況となっており、全国の約 1.5 倍となる 7.56%となっています。

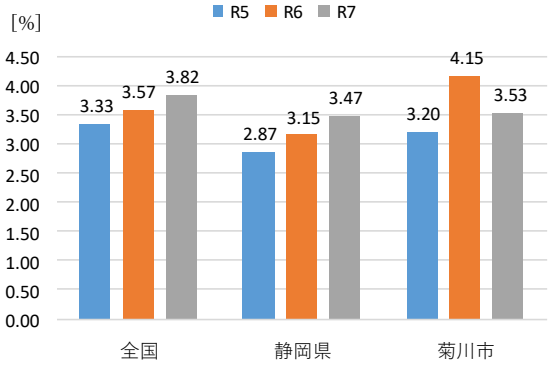


資料：学校基本調査（各年度５月１日現在）

【特別支援学級児童割合】



【特別支援学級生徒割合】

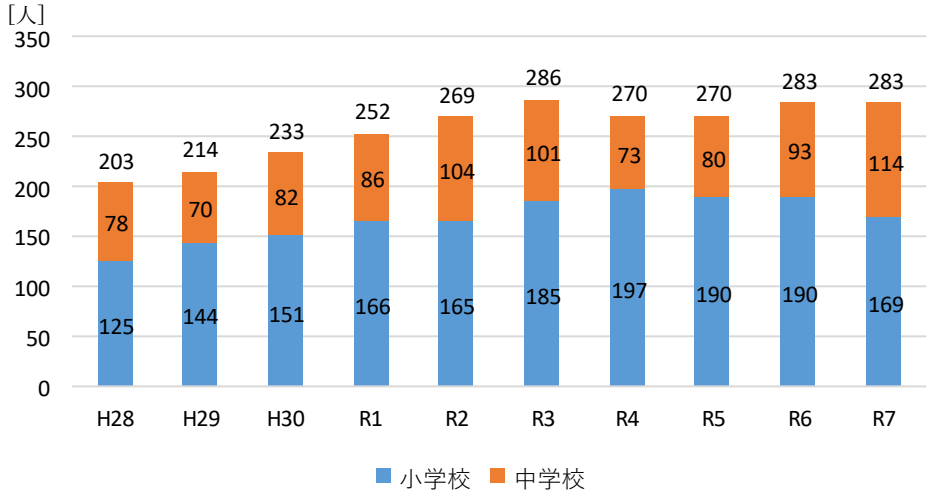


資料：学校基本調査（各年度５月１日現在）

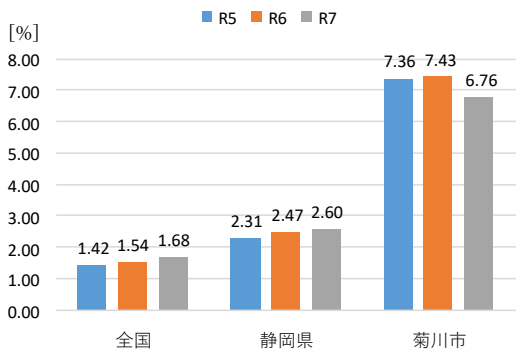
(3) 外国籍児童・生徒数の推移

本市の小学校及び中学校に在籍する外国籍児童生徒は、令和３年度まで増加を続けていましたが、ここ数年は横ばいの状況が続いています。小学校においては平成 28 年度と比較すると、約 1.4 倍となる 169 人となっています。また、外国籍児童生徒の割合は、小学校では全国と比べて約４倍、中学校では約 6.8 倍となっています。このことにより、各学校において様々な対応が求められています。

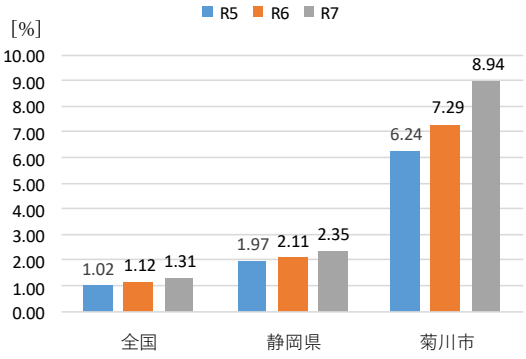
【外国籍児童生徒数】



【外国籍児童の割合】



【外国籍生徒の割合】



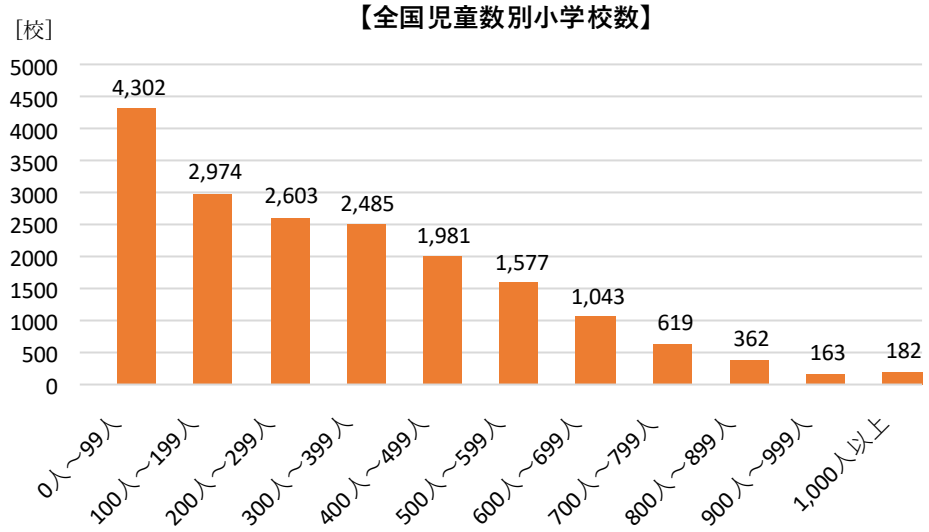
資料：学校基本調査（各年度５月１日現在）

(4)学校規模（児童生徒数別）

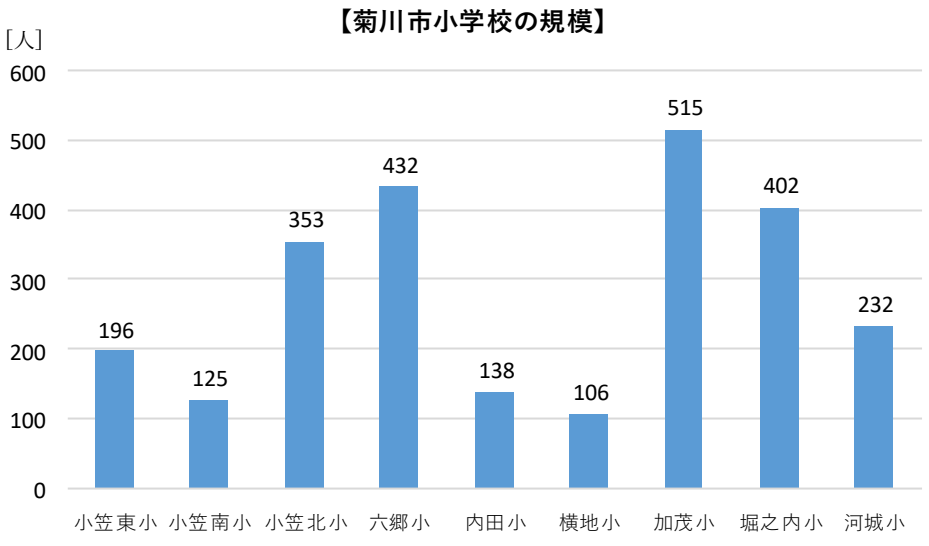
全国における児童数別の小学校数を見ますと、児童数 99 人以下の学校が最も多く、全体の 23.5%とおよそ４校に１校が 99 人以下となる小規模な小学校となっています。また、299 人以下の学校が全体のほぼ半数を占める状況となっています。

本市の小学校における学校規模は、令和７年度において児童数 100 人から 199 人が４校、200 人から 299 人が１校、300 人から 399 人が１校、400 人から 499 人が２校、500 人から 599 人が１校となっています。最も児童数の少ない横地小学校と、最も多い加茂小学校を比較すると約５倍の学校規模となっています。

今後、更なる児童数の減少が予想される中、学校規模大小の特色を生かした学校の在り方や小規模校を生かした多様性を育む教育など、子どもたちにとって望ましい教育環境を実現するための検討が必要になっています。



資料：学校基本調査（令和７年５月１日現在）



資料：学校基本調査（令和７年５月１日現在）

(5)学校施設等の現状

①建築物の現状

小中学校の施設における校舎、屋内運動場（体育館)、プールの建築年、築年数、面積は以下の表の通りとなっています。

これまで耐震補強工事や改築により耐震化を進めてきた結果、校舎及び屋内運動場における耐震化率は、令和６年度末で 100%となりました。その一方で、本市の学校施設は昭和 50 年代に建築されたものが多く、築年数 40 年を超えるものが棟数では 67.5%、保有面積では 81.3%を占めており、長寿命化対策や適切な修繕により、安全・安心な学校環境を確保していく必要があります。

[小学校施設の状況]　　200 ㎡以上を対象

学校名	施設名	構造	階数	建築年月	築年数	面積	耐震化状況
小笠東小学校	校舎（管理・教室棟）	RC	3	S54.9	46	2,503	Ｒ４耐震補強
	校舎（多目棟）	RC	2	S62.12	38	438	耐震基準適合
	校舎（ＰＣ棟）	RC	2	H10.12	27	439	耐震基準適合
	屋内運動場	S	1	H21.2	17	912	耐震基準適合
	プール	FRP	－	H5.3	33	375	耐震基準適合
小笠南小学校	校舎（管理・教室棟）	RC	3	S54.10	46	2,482	Ｒ３繰耐震補強
	校舎（多目棟）	RC	2	H1.2	37	490	耐震基準適合
	屋内運動場	S	1	H23.2	15	894	耐震基準適合
	プール	FRP	－	H7.4	30	375	耐震基準適合
小笠北小学校	校舎（教室棟）	RC	3	S53.11	47	1,262	Ｈ30繰耐震補強
	校舎（昇降口棟）	RC	2	S53.11	47	334	耐震基準適合
	校舎（管理・教室棟）	RC	3	S53.11	47	2,182	耐震基準適合
	校舎（多目棟）	RC	2	H4.2	34	353	耐震基準適合
	校舎（ＰＣ棟）	RC	3	H10.2	28	580	耐震基準適合
	屋内運動場	S	1	H19.1	19	919	耐震基準適合
	プール	FRP	－	H3.3	35	425	耐震基準適合
六郷小学校	校舎（管理・教室棟）	RC	3	S38.12	62	1,256	Ｓ61耐震補強
	校舎（教室棟）	RC	4	S55.2	46	2,133	Ｈ10耐震補強
	校舎（昇降口棟）	RC	2	S55.2	46	260	Ｒ５耐震補強
	校舎（教室棟）	RC	3	H1.2	37	1,238	耐震基準適合
	屋内運動場	S	1	H28.2	10	1,065	耐震基準適合
	プール	FRP	－	H27.1	11	375	耐震基準適合
内田小学校	校舎（管理・教室棟）	RC	1	S55.10	45	405	耐震基準適合
	校舎（教室棟）	RC	3	S55.10	45	1,686	Ｈ30耐震補強
	校舎（教室棟）	RC	3	H5.2	33	338	耐震基準適合
	屋内運動場	S	1	H29.3	9	894	耐震基準適合
	プール	RC	－	S42.7	58	340	耐震基準適合
横地小学校	校舎（管理・教室棟）	RC	3	S52.2	49	1,779	Ｈ29耐震補強
	校舎（教室棟）	S	2	H24.2	14	479	耐震基準適合
	屋内運動場	RC	2	S56.3	45	753	耐震基準適合
	プール	RC	－	S43.8	57	300	耐震基準適合
加茂小学校	校舎（教室棟）	RC	4	S48.3	53	2,457	Ｒ2耐震補強
	校舎（教室棟）	RC	4	S52.12	48	332	Ｒ2耐震補強
	校舎（管理・特別教室棟）	S	2	H19.2	19	630	耐震基準適合
	校舎（特別教室棟）	RC	3	R2.3	6	1,633	耐震基準適合
	屋内運動場	RC	2	S54.2	47	773	Ｈ25耐震補強
	プール	RC	－	S44.7	56	340	耐震基準適合

学校名	施設名	構造	階数	建築年月	築年数	面積	耐震化状況
堀之内小学校	校舎（管理・教室棟）	RC	4	S54.11	46	3,514	H29耐震補強
	屋内運動場	S	1	H23.2	15	919	耐震基準適合
	プール	RC	－	S39.7	61	340	耐震基準適合
河城小学校	校舎（管理・教室棟）	RC	3	S40.9	60	1,894	S59耐震補強
	校舎（教室棟）	RC	3	S58.2	43	1,149	耐震基準適合
	屋内運動場	RC	1	S62.2	39	878	耐震基準適合
	プール	RC	－	S61.5	39	344	耐震基準適合

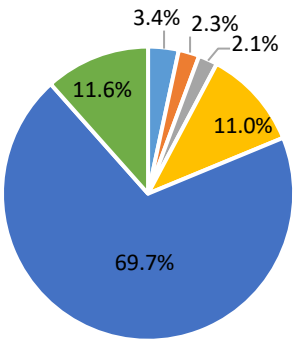
［中学校施設の状況］　　200㎡以上を対象

学校名	施設名	構造	階数	建築年月	築年数	面積	耐震化状況
岳洋中学校	校舎	RC	4	S59.3	41	4,449	耐震基準適合
	校舎（教室棟）	S	2	S59.3	41	663	耐震基準適合
	屋内運動場	S	1	H18.2	19	1,337	耐震基準適合
	プール	RC	－	S37.8	63	800	耐震基準適合
菊川西中学校	校舎（管理棟）	RC	3	S57.7	43	2,195	耐震基準適合
	校舎（教室棟）	RC	3	S57.7	43	2,162	耐震基準適合
	校舎（渡り廊下棟）	RC	3	S57.7	43	512	耐震基準適合
	校舎（昇降口棟）	RC	3	S57.7	43	467	耐震基準適合
	校舎（技術棟）	S	1	S57.7	43	297	耐震基準適合
	屋内運動場	R	2	S59.2	41	1,362	耐震基準適合
	プール	FRP	－	H22.1	15	425	耐震基準適合
菊川東中学校	校舎（管理・教室棟）	RC	3	S53.3	47	1,393	耐震基準適合
	校舎（管理・教室棟）	RC	3	S53.3	47	1,168	耐震基準適合
	校舎（教室棟）	RC	3	S53.3	47	225	耐震基準適合
	校舎（旧技術棟）	S	1	S53.3	47	247	倉庫として使用
	校舎（教室棟）	RC	3	S61.2	39	836	耐震基準適合
	校舎（教室棟）	RC	3	H1.2	36	267	耐震基準適合
	校舎（教室棟）	RC	2	H3.2	34	1,379	耐震基準適合
	屋内運動場	RC	1	S53.3	47	1,089	耐震基準適合
	プール	SS	－	S53.7	47	850	耐震基準適合

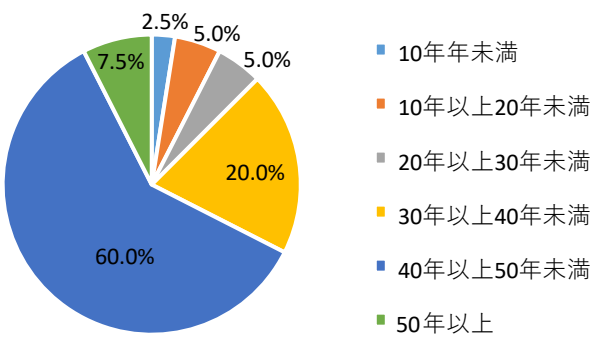
資料：教育総務課（令和８年３月31日現在）

［学校施設築年数別割合］

【面積別】



【棟数別】



資料：教育総務課（令和８年３月31日現在）

②学校給食センターの現状

本市では、学校給食の提供として市内１つの施設となるセンター方式により調理を行っています。施設については、建築後 23 年を経過し施設や設備等の老朽化が進んでいます。今後は、衛生管理はもとより老朽化に対応した計画的な更新が必要となっています。

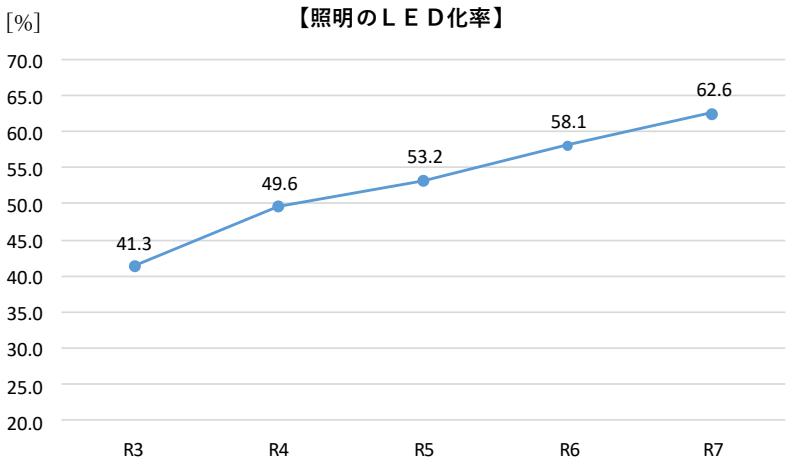
施設名	構造	階数	建築年月	築年数	面積	備考
学校給食センター	S	2	H14.3	23	1,612	耐震基準適合

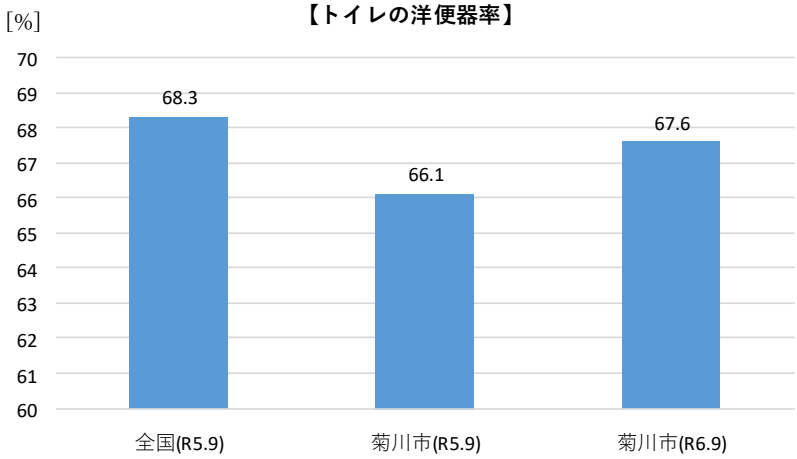
資料：学校給食センター

③学校施設設備等の現状

学校施設における照明全体のＬＥＤ化率は、校舎の大規模改造工事や屋内運動場照明のＬＥＤ化工事などにより毎年上昇し令和７年度には 62.6％となっています。屋内運動場については、令和７年度末現在で照明のＬＥＤ化率は 100％となっています。校舎においては、近年、大規模改造工事を実施していない学校の割合が低くなっています。トイレの洋式化は、全国平均に比べ、やや低い洋便器率となっていますが、年々割合は上昇しています。

近年の気温上昇による暑さ対策として、特別教室への空調設備の設置や、省エネ及び地球温暖化対策としての照明のＬＥＤ化、子どもたちの生活環境を向上させるためのトイレの洋式化などを進める必要があります。





資料：教育総務課

(6) 学校給食の状況

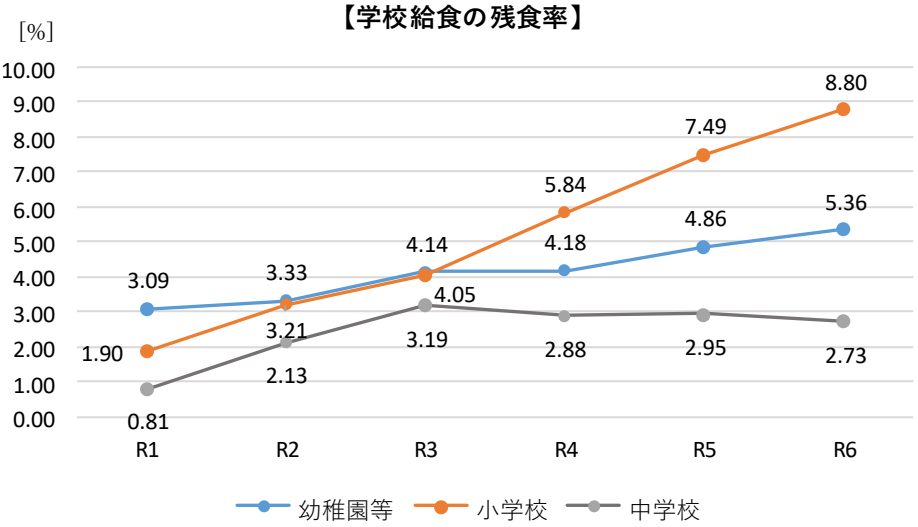
①給食の残食率

本市の学校給食センターでは、現在、認定こども園３園、小学校９校、中学校３校と合計15施設に対し給食の提供を行っています。

給食の残食率は全体として増加傾向となっています。令和６年度の残食率はこども園が5.36%、小学校が8.8%、中学校が2.73%となっており、小学校が高い状況となっています。

学校給食の目的は、児童生徒の健康増進と体力向上、健全な食生活と正しい食の知識を身に着けることであり、引き続き安全でおいしい給食を提供する必要があります。

【学校給食の残食率】

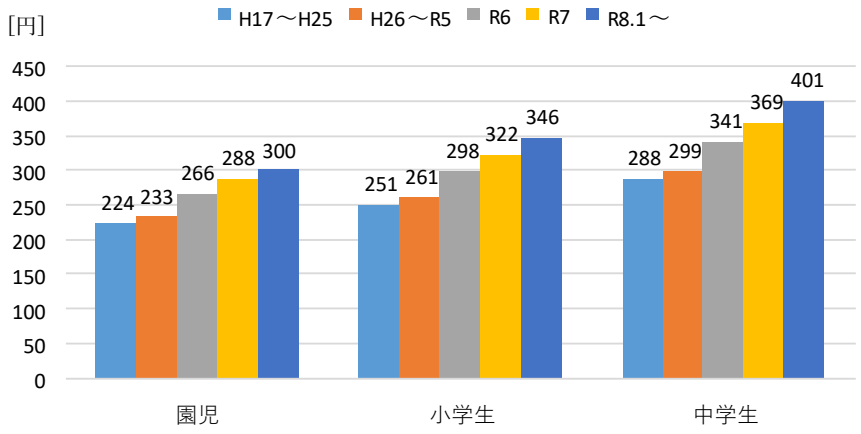


資料：学校給食センター

②給食費の状況

本市の給食費は、令和８年１月現在、園児300円、小学生346円、中学生401円となっています。これまで消費税率の変更などにより額の改訂を行っていましたが、近年の物価高騰の影響から令和６年度、令和７年度と２年連続で改訂を行っています。国においては、学校給食費の抜本的な負担軽減に向けた検討が行われているところです。

【給食費の推移】

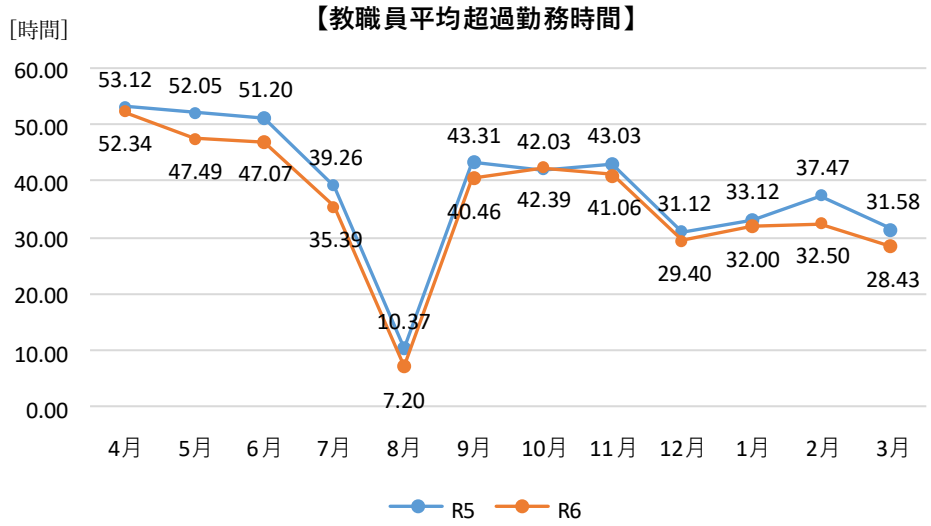


資料：学校給食センター

(7) 教職員の状況

本市の市立小中学校における教職員の月平均の時間外勤務は、小中学校とも長時間にわたっている状況が継続しています。令和５年度と令和６年度を比較した場合、ほぼ毎月にわたって減少傾向が見られ、教職員の働き方改革の成果が見られます。

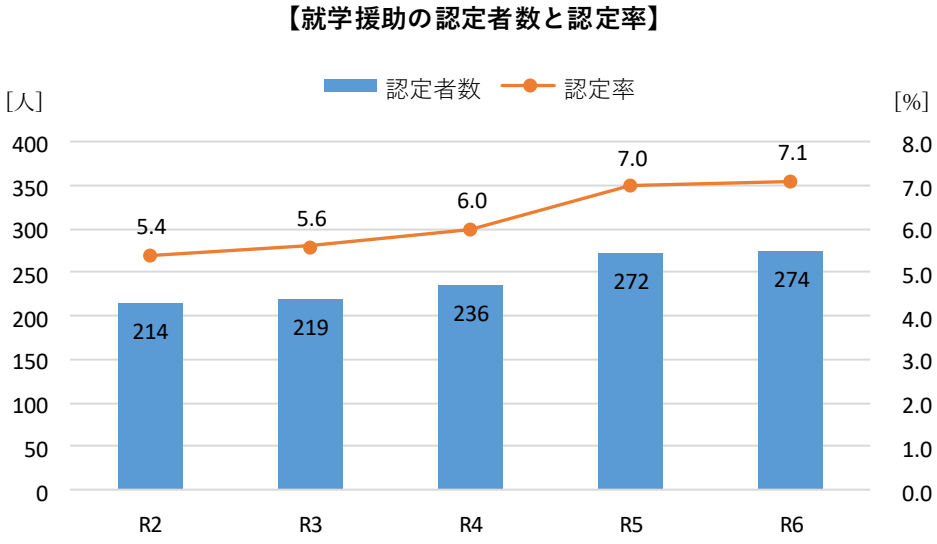
現在進めている中学校部活動の地域展開や、校務のＤＸ化などにより更なる教職員の働き方改革を進める必要があります。



資料：学校教育課

(8) 家庭への支援の状況

市内小中学校における就学援助の認定者は、毎年上昇を続けており令和６年度には 274 人となっています。また、認定率も同様に増加が続いており、令和６年度の認定率は 7.1%となっています。認定の理由としては、ひとり親家庭による経済難が多くなっています。

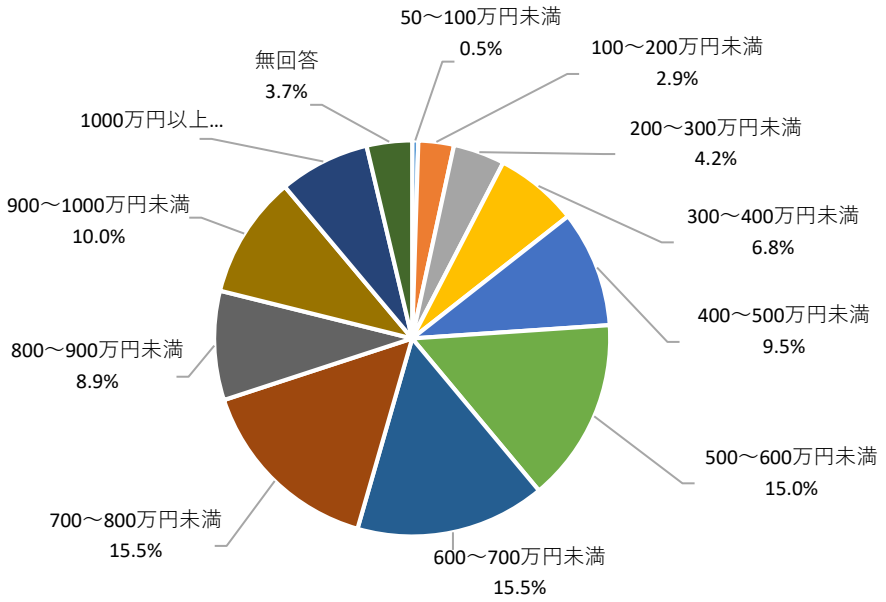


資料：教育総務課

(9) 子どものいる家庭の経済状況

令和５年度に実施した、「子どもの生活状況調査」における家庭の世帯収入は、以下のとおりとなっています。世帯収入 600 万円未満が全体の約４割となっています。また、一般的に高所得世帯となる世帯収入が 1,000 万円以上となる世帯は、7.4%となっています。

【家庭の世帯収入】



資料：子育て応援課　令和５年度子どもの生活状況調査

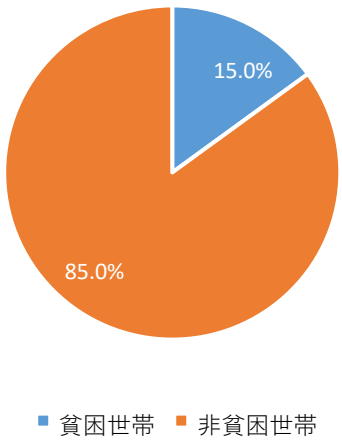
（対象：小学校５年生及び中学校２年生の保護者）

(10) 貧困世帯の状況

国や近隣市町の調査を準用して、年間収入が 400 万円以下（全体の下位置 15%）を貧困世帯とし、その他を非貧困世帯と区分しています。

クロス集計の結果では、貧困世帯の父親の正社員や正規職員の割合は約４割であり、生活が苦しい状況になっています。また、貧困世帯の保護者のうち約７割が、収入や教育費の経済的な悩みを抱えていることや、こどもの半数は基本的な生活習慣が身についておらず、こどもの友人関係や発育、病気に悩みや心配がある割合が高い状況となっています。

【貧困の状況】



資料：子育て応援課　令和５年度子どもの生活状況調査

（対象：小学校５年生及び中学校２年生の保護者）

4. 児童・生徒の状況の変化

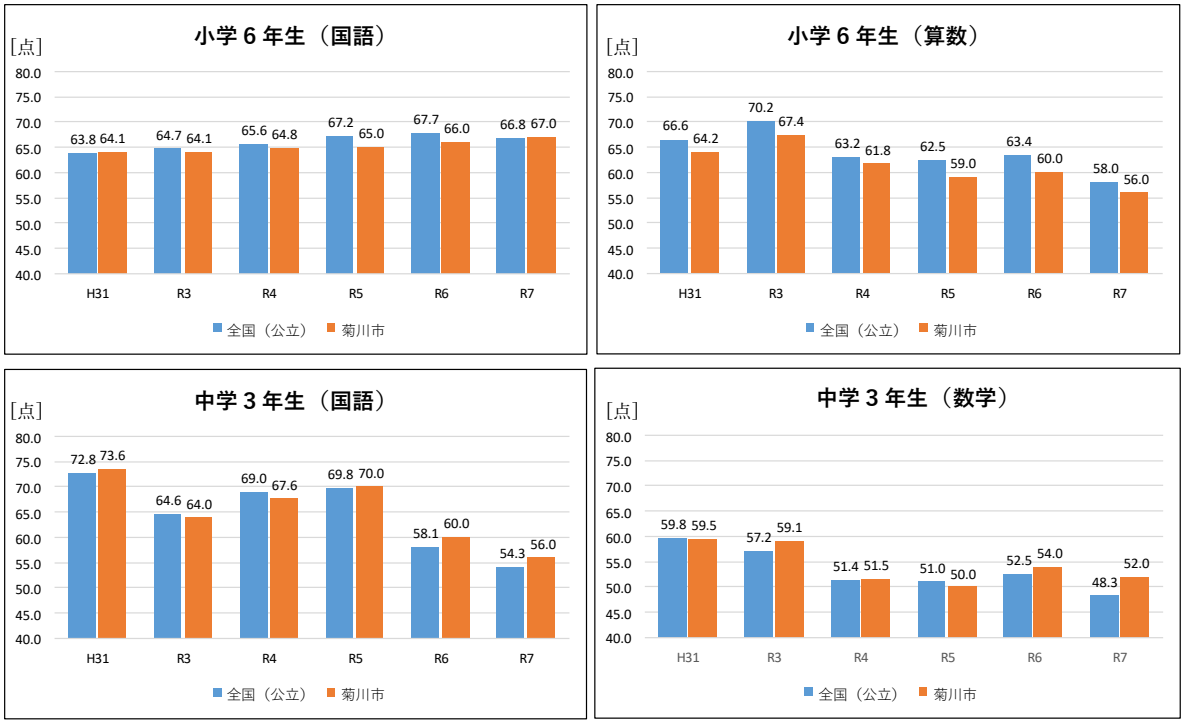
(1)学力及び学習の状況

①教科（国語・算数・数学）に関する調査結果

小学校国語においては、年々上昇傾向であり、令和７年度には全国平均を上回りました。小学校算数においては、低下傾向が続いており、全国平均を下回ることも続いています。

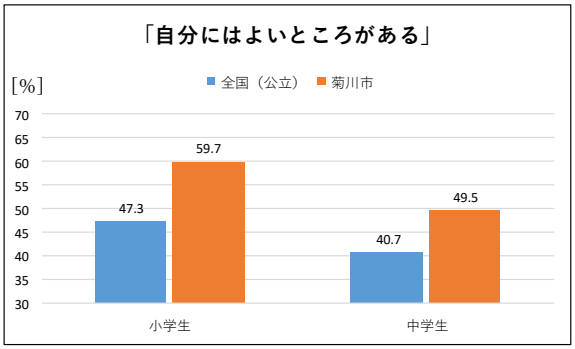
中学校国語においては、低下傾向が続いていますが、近年では全国平均を上回ることが続いています。中学校算数は、ここ数年横ばいの状況が続いていますが、令和７年度には全国平均を大きく上回っています。この結果を生かしながら、授業改善などを通じた学力向上を目指す必要があります。

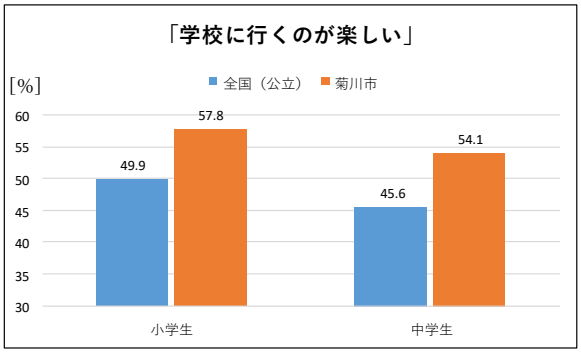
【教科別の平均正答率】



②児童・生徒質問調査の結果

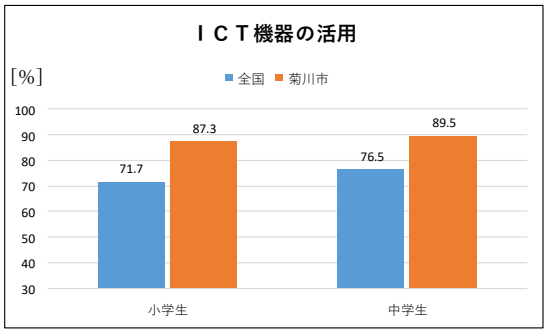
下記２項目については、「当てはまる」と答えた児童生徒の割合が全国平均と比べてとても高い傾向があります。また、「どちらかと言えば当てはまる」も含めますと、どちらの質問も９割以上の児童生徒が肯定的な回答をしています。２項目の間には相関関係がみられ、楽しく学校に通うことで、自分のよさにも気づくことができていると思われます。





昨年度までの授業内で ICT 機器を週３回以上利用したと回答した割合は、全国平均を大幅に上回っています。

今後も ICT 機器等の効果的な活用方法を研究し、児童生徒の学力向上を目指して授業改善を進めていく必要があります。



資料：全国学力・学習状況調査（令和７年度）

※令和２年度は新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し未実施

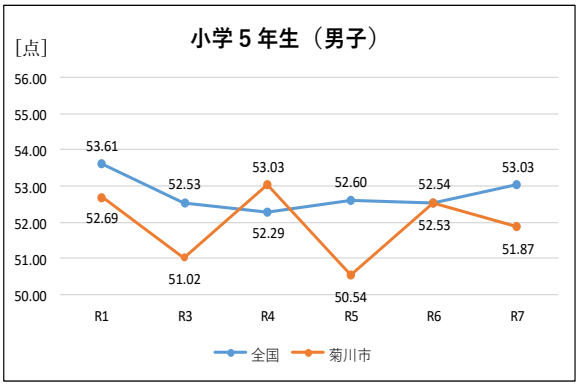
(2) 体力・運動能力の状況

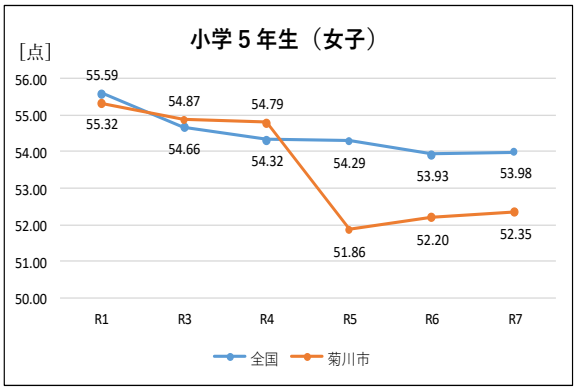
小学生については、男女とも全国平均を下回る状況です。女子につきましては、令和６年度から上昇に転じ改善が見られる状況です。

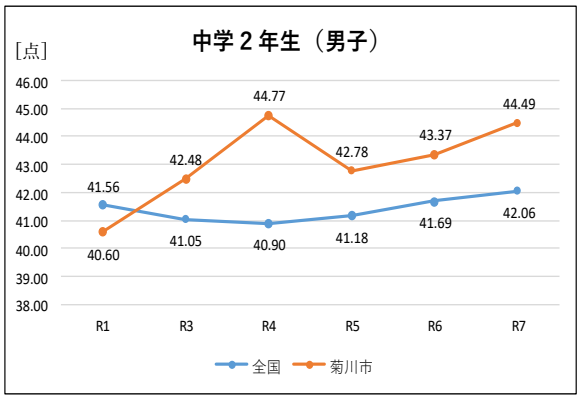
中学生については、男女とも全国平均を上回っています。男子につきましては、上昇傾向であり、全国平均を 2.43 ポイントと大幅に上回っています。女子は令和６年度まで全国平均を大幅に上回っていましたが、令和７年度低下に転じ、全国平均に近づいています。

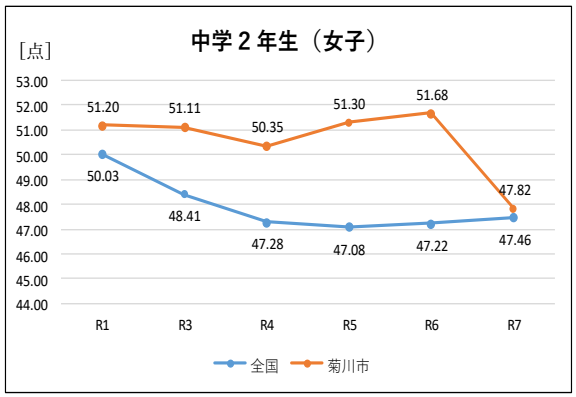
各学校において、児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育、健康等に関する指導などの改善を行う必要があります。

【児童生徒の体力合計点】









資料：全国体力・運動能力、運動習慣等調査

※令和２年度は新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し未実施

(3) 不登校及びいじめの状況

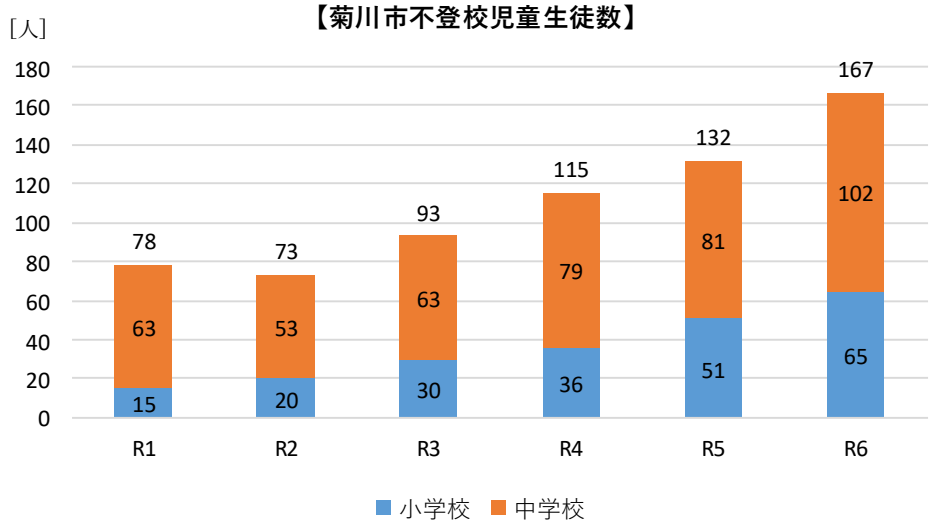
①不登校児童生徒の状況

本市の小中学校における不登校児童生徒は、増加傾向にあります。令和６年度には、167人となっています。小中学校別では、小学校が全体の約４割となる 65 人、中学校が約６割の 102 人となっています。

全国の不登校児童生徒数を見ますと、本市と同様に増加傾向にあります。令和６年度には、過去最高となる 35 万４千人となっています。小学校が全体の約４割となる 13 万８千人、中学校が約６割の 21 万６千人となっています。

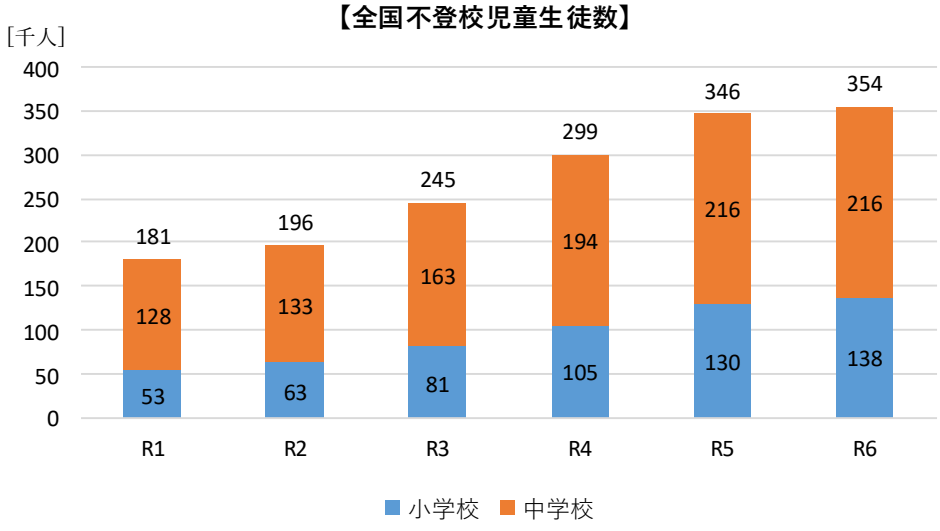
文部科学省での取り組みでは、「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要があるとされています。本市におきましても、新規の不登校者を未然防止するための魅力ある学校づくりや、継続不登校児童生徒や家庭に対して、関係機関・専門家と連携した個別支援が必要になっています。

【菊川市不登校児童生徒数】



資料：学校教育課

【全国不登校児童生徒数】



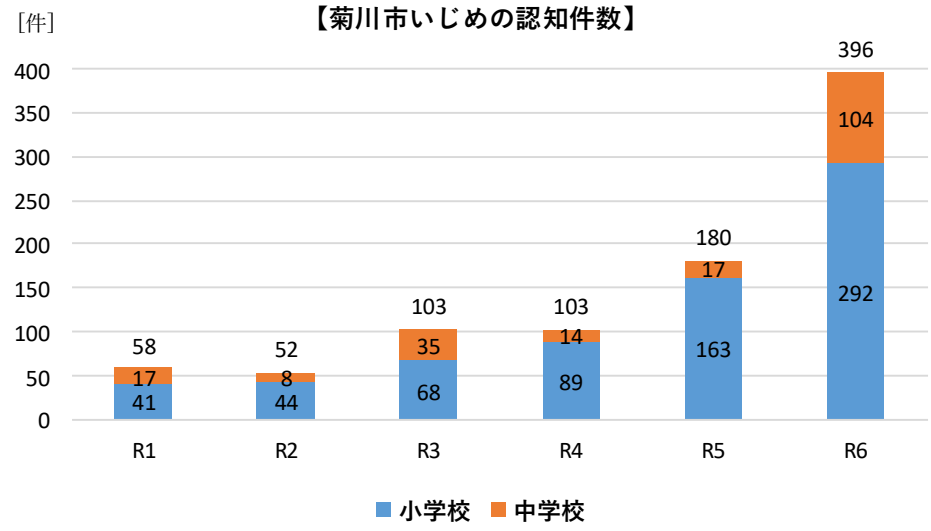
資料：児童生徒の問題行動等の諸問題に関する調査

②いじめの状況

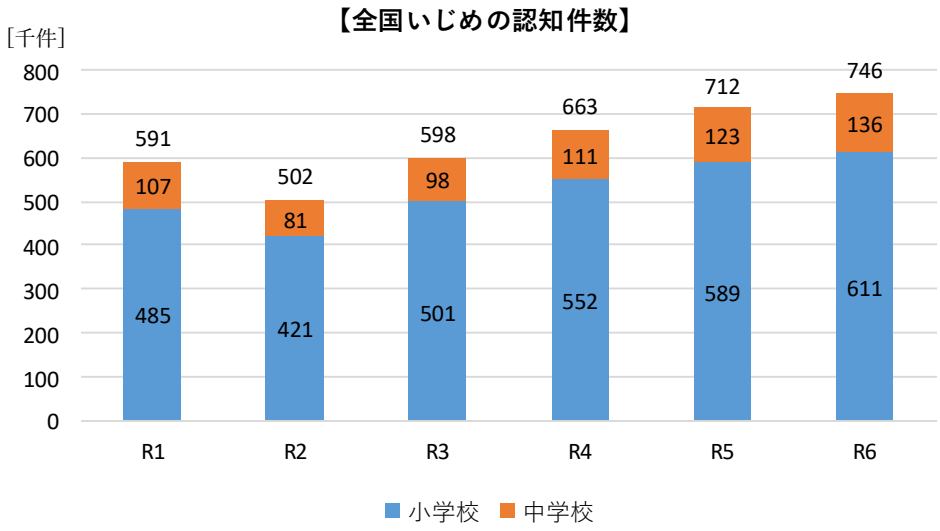
本市の小中学校におけるいじめの認知件数は、令和６年度に 396 件となり、増加傾向にあります。小学校、中学校別では、小学校が 292 件、中学校が 104 件となっています。特に令和５年度から令和６年度の増加が著しい状況となっています。

全国の認知件数におきましても増加傾向にあり、令和６年度には過去最高となる 74 万６千件となっています。小学校における認知件数が多く、全体の約８割を占めています。

いじめの認知件数の増加については、各学校が「いじめ防止対策推進法」に基づいていじめを認知する意識が向上しているものと考えています。今後も、重大な事態に至ることのないよう、未然防止に努めるとともに、いじめを認知した際の適切な初期対応を組織的に行うことが必要となっています。



資料：学校教育課



資料：児童生徒の問題行動等の諸問題に関する調査

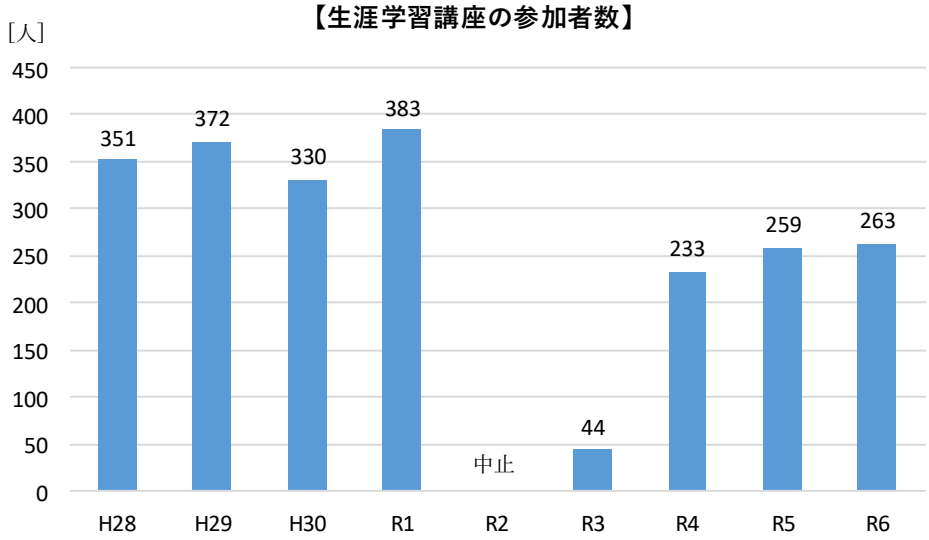
５. 社会教育の状況

(1) 生涯学習の状況

①生涯学習講座の参加状況

本市ではステップアップ講座やいきいきカレッジ菊川などの生涯学習講座を実施し、生涯学習の機会を提供しています。生涯学習講座の参加者数は、新型コロナウイルス感染症により大きく減少しましたが、令和４年度からは増加傾向にあり、令和６年度には 263 人となっています。今後も市民に対し生涯学習の機会を提供し、いつまでも学び続けるひとづくりを更に進める必要があります。（令和２年度は中止）

【生涯学習講座の参加者数】

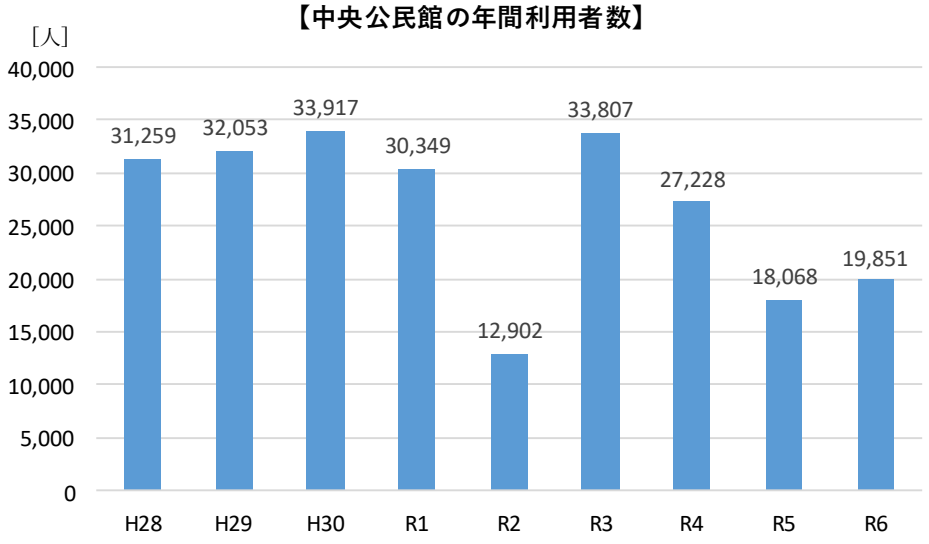


資料：社会教育課

②中央公民館の利用状況

本市の生涯学習拠点となる中央公民館の利用状況は、減少傾向にありましたが、、令和６年度に 19,851 人となり増加に転じました。様々な市民の団体が中央公民館を拠点として生涯学習活動を実施しているところであり、更なる活用により生涯学習活動を推進する必要があります。

【中央公民館の年間利用者数】

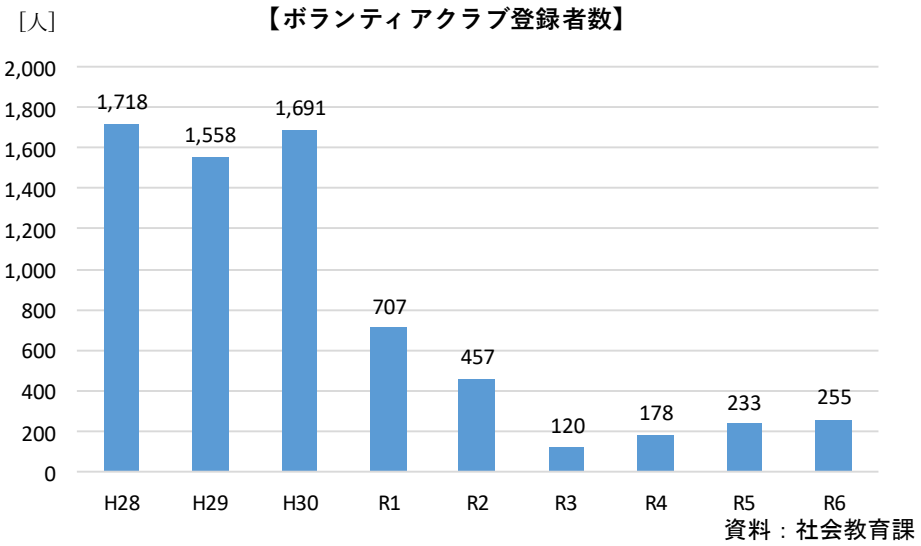


資料：社会教育課

③ボランティア活動の状況

本市では、市内に在住・通学、または市内でのボランティア活動を希望する近隣市町の小学生・中学生・高校生のうち、ボランティア活動の精神を理解し積極的に取り組む意欲のある者に「菊川市ボランティアクラブ」への登録を呼びかけています。

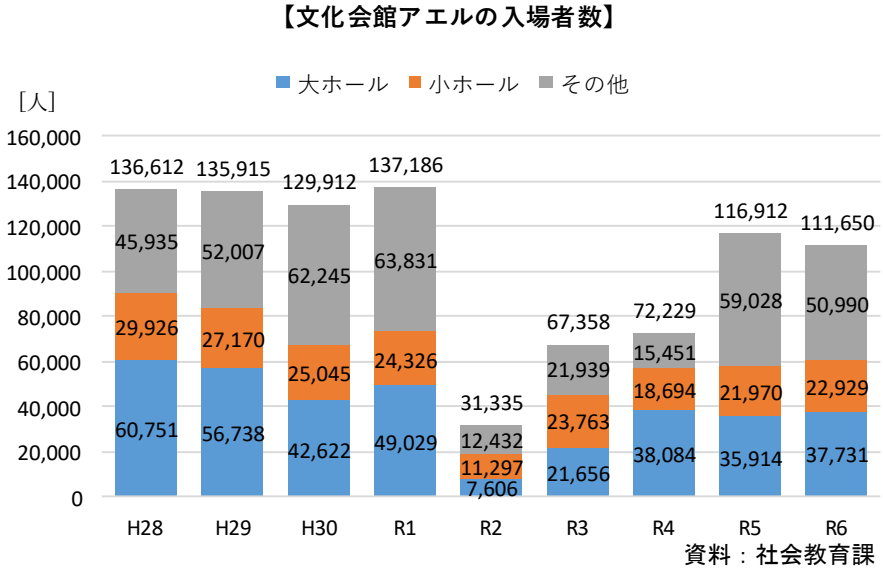
ボランティアクラブの登録者数は、平成 30 年度までは 1,700 人前後で推移していましたが、令和元年度以降に大きく減少し、令和３年度には 120 人となりました。新型コロナウイルス感染症の影響に加え、募集方法の変更や部活動・塾・習い事などで多忙な学生が増えたこと、余暇の過ごし方が変化したことなどが要因として考えられます。令和４年度以降は、緩やかな回復傾向にあります。



(2) 芸術文化の状況

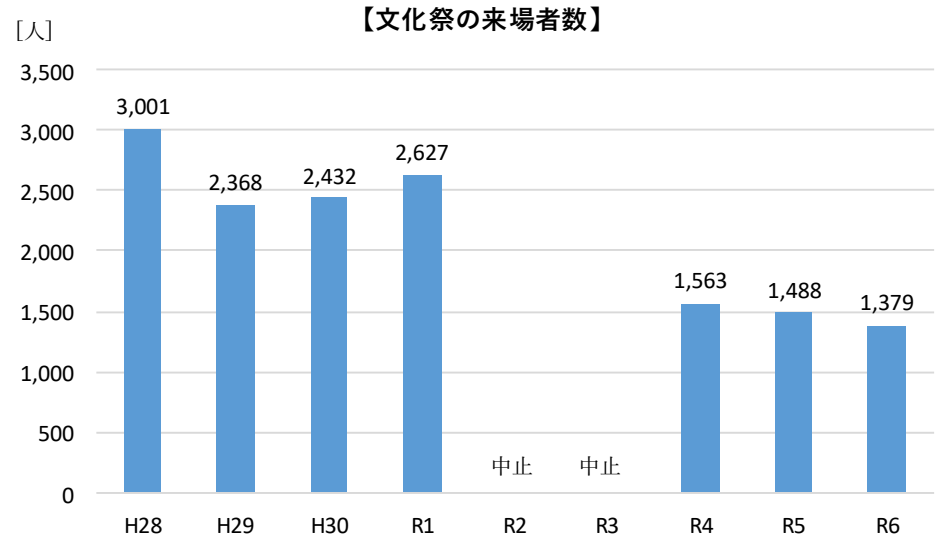
①菊川文化会館アエルの状況

菊川文化会館アエルの入場者数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた令和２年度に 31,335 人と大きく減少しましたが、その後は増加傾向となっています。しかしながら、令和元年度以前の約 13 万人には依然届いていない状況となっています。



②文化祭の状況

菊川市文化祭の入場者数は、減少傾向にあり令和６年度には 1,379 人となっています。また、運営を市から委託されている菊川市文化協会の会員数も同様に減少しています。市の文化の発表機会でもある菊川市文化祭への入場者数を増加させ、芸術文化の発展に務める必要があります。（令和２年度及び令和３年度は開催を中止）

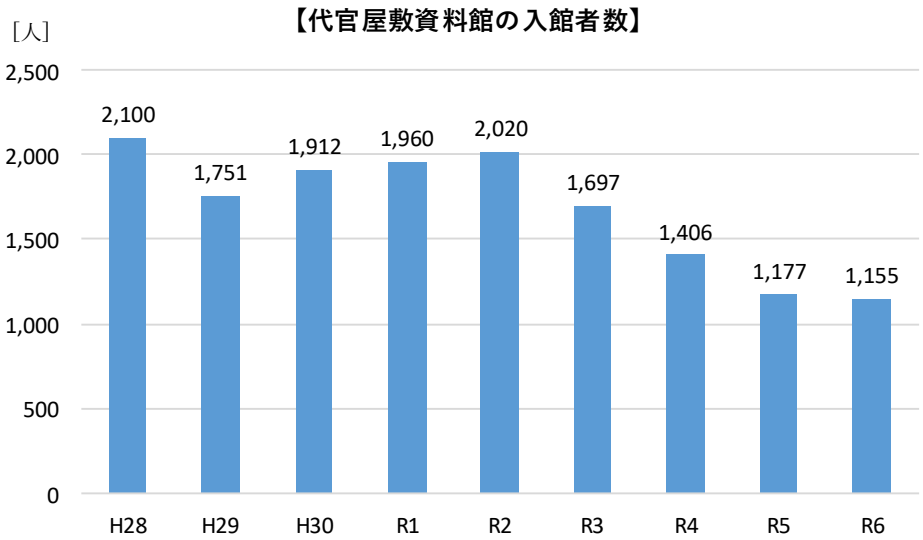


資料：社会教育課

(3) 歴史・文化財の状況

①黒田家代官屋敷資料館の入館者数

黒田家代官屋敷資料館の入館者数は、平成 30 年度から令和２年度には増加傾向にありましたが、令和３年度からは減少に転じ令和６年度 1,155 人となっています。国指定の重要文化財である黒田家住宅（主屋・長屋門・米蔵・東蔵）を更に周知することで本市の歴史・文化の発展に務める必要があります。



資料：社会教育課

②指定・登録文化財の状況

【菊川市指定・登録文化財一覧表】

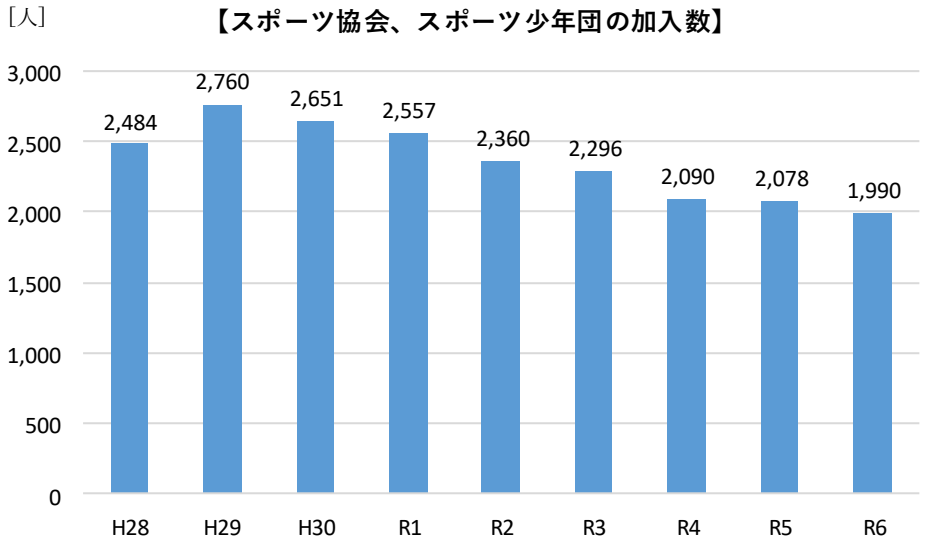
区　分	種　別		名　称	所在地	指定年月日
国指定	重要文化財	建造物	応声教院山門	中内田	昭和29年9月17日
			黒田家住宅 （主屋・長屋門・米蔵・東蔵）	下平川	昭和48年6月2日 平成5年4月20日追加
	史　跡		菊川城館遺跡群 （高田大屋敷遺跡・横地氏城館跡）	東横地ほか	平成16年9月30日 平成21年2月12日追加
県指定	有形文化財	書　跡	紙本墨書大般若経折本（写本）	友田	昭和35年2月23日
		絵　画	紙本墨画淡彩山水図	半済	昭和58年9月27日
	記念物	史　跡	舟久保古墳	高橋	昭和52年3月18日
市指定	有形文化財	建造物	潮海寺仁王門	潮海寺	昭和35年2月23日
			大頭龍神社の鳥居	加茂	昭和35年2月23日
		彫　刻	今川６代義忠の木像	高橋	平成2年4月1日
			潮海寺仁王像	潮海寺	令和5年2月20日
		書　跡	平尾八幡宮の俳句額	中内田	昭和35年2月23日
			平尾八幡宮の棟札	中内田	昭和59年3月26日
			平尾八幡宮神社社号彫刻拝殿額	中内田	昭和59年3月26日
			平尾八幡宮宝永年間神無月奉納俳句額	中内田	昭和59年3月26日
		絵　画	寿桂尼画像（掛軸）	高橋	平成2年4月1日
			驟雨の図（掛軸）	下平川	令和5年8月30日
		考古資料	平尾八幡宮中世紀河童鬼瓦他数点	中内田	昭和59年3月26日
		古文書	嶺田用水関係文書	下平川	令和7年5月23日
	民俗文化財	有　形	平尾八幡宮寛政七年御輿	中内田	昭和59年3月26日
		無　形	潮海寺祇園お囃子	潮海寺	昭和35年2月23日
			虚空蔵山福蔵院節分祭	高橋	平成9年1月29日
			段平尾のさんげさんげ	下内田	平成20年3月11日
	記念物	史　跡	大徳寺の古墳	半済	昭和35年2月23日
			平尾八幡宮奉還時建立大鳥居の礎石	中内田	昭和59年3月26日
			朝日神社古墳	下平川	平成9年10月4日
		天　然 記念物	善勝寺楠	棚草	昭和47年8月1日
			熊野神社なぎ	高橋	昭和53年6月7日
国登録	有形文化財	建造物	菊川赤れんが倉庫	堀之内	平成26年4月25日

資料：社会教育課

(4) スポーツの状況

①スポーツ関係団体の状況

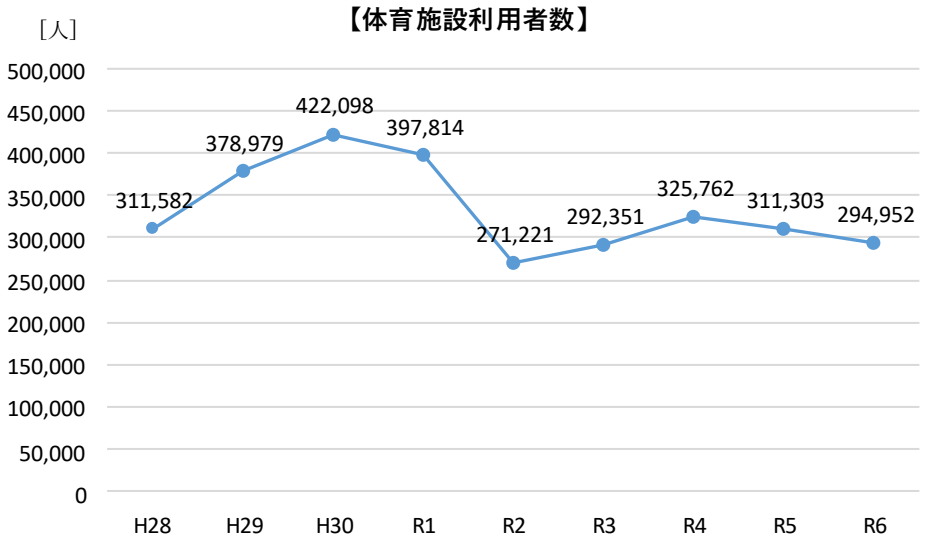
スポーツ協会及びスポーツ少年団の加入者は、近年では平成 29 年度をピークに減少傾向にあり、令和６年度には 1,990 人となっています。目標値である令和８年度の 2,900 人には届きにくい状況となっています。スポーツを通じて健やかな心や体を養うため、更なるスポーツの普及を図る必要があります。



資料：社会教育課

②スポーツ施設の利用状況

市立スポーツ施設（市立体育館、野球場、テニスコート、グラウンドゴルフ場など）の延べ利用者数は、令和２年度の新型コロナウイルス感染症対策による使用制限などにより大きく減少しています。その後、上昇傾向でしたが令和４年度からは減少傾向に転じ、令和６年度には 294,952 人となっています。



資料：社会教育課

【体育施設利用状況一覧】　　［人］

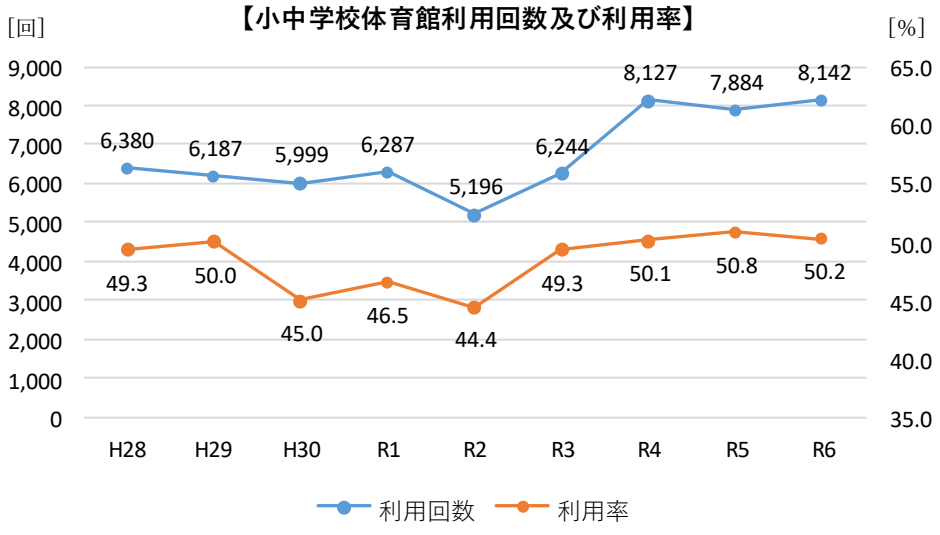
施設名		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
菊川運動公園	野球場	17,881	26,804	33,769	25,592	14,067	14,232	19,425	17,083	23,126
	炭焼きさわやかグランド	30,467	35,652	38,926	33,969	20,810	24,025	27,245	25,522	27,753
	陸上トラック	2,899	10,061	10,295	14,023	4,410	6,457	5,418	4,738	4,528
	ローンゲーム場	10,216	14,116	10,252	8,676	6,877	9,015	10,093	8,846	7,890
	北グランド	12,178	10,142	12,475	10,141	6,543	6,917	8,998	9,232	7,668
和田公園	テニスコート	6,277	9,093	8,030	8,266	7,253	7,253	9,038	10,829	12,196
	多目的広場	16,473	33,077	38,317	38,643	35,303	24,154	26,367	26,687	22,408
尾花運動公園	オムニコート	1,788	2,448	2,278	2,338	1,408	0	2,741	2,373	2,541
	ハードコート	1,289	1,429	1,533	1,519	1,557	1,738	2,297	2,525	1,725
	多目的広場	30,381	41,804	45,372	43,422	29,451	31,208	35,888	34,752	31,578
菊川公園	グランド	13,354	14,524	27,924	24,963	17,359	18,885	21,425	13,980	12,317
おおぞら農村公園	グランド	4,787	9,047	8,134	1,868	－	－	－	－	－
丹野グラウンド	グランド	6,973	11,550	12,008	10,931	8,665	10,765	17,784	16,287	15,843
小笠グランドゴルフ場	グランド	28,966	33,891	44,706	44,344	23,396	24,810	26,158	24,655	19,821
菊川市民総合体育館	フロア	39,731	46,442	46,856	46,778	26,679	53,729	41,842	42,702	39,460
	柔道場	2,097	1,884	3,070	1,884	3,897	2,199	106	2,973	2,917
	剣道場	4,805	3,016	2,376	2,156	2,056	1,101	232	3,061	2,871
	会議室	6,255	5,601	5,179	6,570	4,415	1,953	753	5,803	7,985
堀之内体育館	フロア	33,680	33,706	33,859	33,861	27,733	24,104	26,548	27,773	25,993
	２階	4,385	4,382	4,206	4,620	1,712	1,545	1,939	2,035	1,714
小笠体育館	フロア	36,700	30,310	32,533	33,250	27,630	28,261	41,465	29,447	24,618
合計		311,582	378,979	422,098	397,814	271,221	292,351	325,762	311,303	294,952

資料：社会教育課

③小中学校体育館一般開放の状況

本市では、地域住民の社会教育活動、文化活動の促進及び社会体育の普及振興を図るため、菊川市立学校の施設を学校教育上に支障のない範囲において、住民の利用に供するために一般開放を行っています。一般開放における年間延べ利用回数は、以下のとおりです。

新型コロナウイルス感染症の影響から令和２年度に大きく減少しましたが、その後増加傾向となり令和６年度には 8,142 回となっています。このことにより、一般市民の一般開放による利用が進んでいます。なお、年間利用可能回数における令和６年度の利用率は、50.2%となっています。

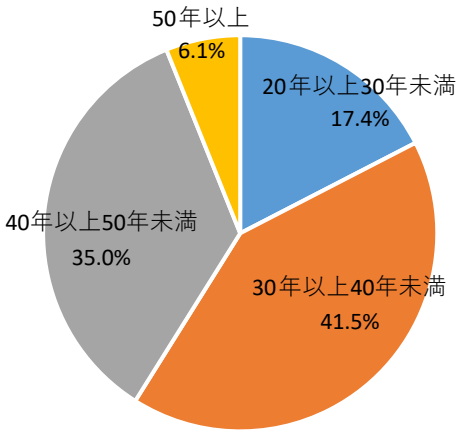


資料：社会教育課

(5) 社会教育施設の状況

本市には、生涯学習活動の拠点となる中央公民館、芸術文化活動の発信拠点である菊川文化会館アエル、文化財の保存・活用を図るための黒田家代官屋敷資料館や埋蔵文化財センター、屋内スポーツ活動を推進するための体育館、読書活動を推進するための図書館など下記の施設を保有しています。それぞれの築年数は、以下のとおりとなりますが、30 年を超える施設が全体の約８割を超えています。このことにより、施設の長寿命化や設備の改修など計画的に実施していく必要があります。

【社会教育施設の築年数割合】



【社会教育施設一覧】

施設名	構造	階数	建築年	築年数	面積	備考
中央公民館	RC	2	H13	24	2,205	
文化会館アエル	SRC	3	H3	34	7,189	
黒田家代官屋敷資料館	S	1	H7	30	195	
埋蔵文化財センター	S	1	S63	37	912	
市民総合体育館	SRC	2	S56	44	3,687	
小笠体育館	RC	2	S60	40	1,557	
堀之内体育館	S	2	S50	50	1,216	Ｒ７～建替え実施中
菊川文庫	RC	3	S60	40	1,759	
小笠図書館	RC	1	H13	24	1,279	

資料：社会教育課

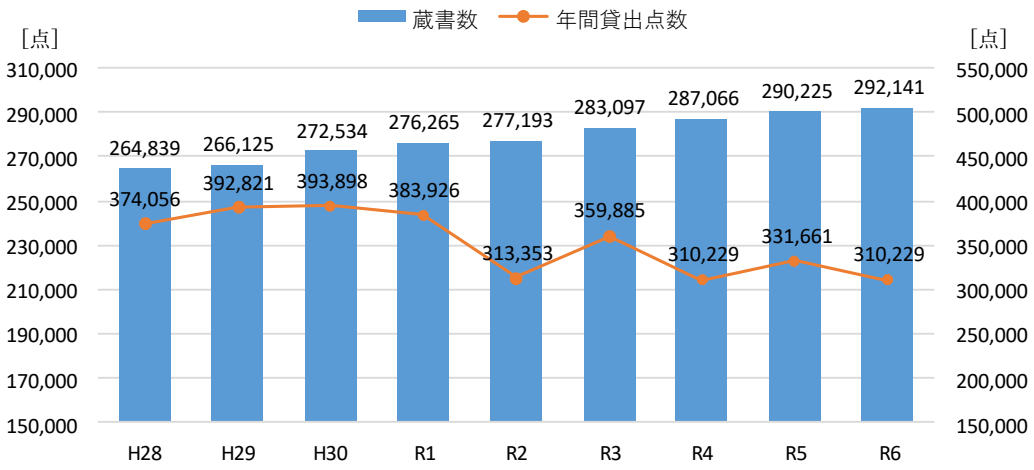
６．読書活動の状況

(1) 図書館の蔵書及び利用状況

①図書館の蔵書数及び年間貸出冊数

本市では菊川文庫及び小笠図書館の２館を設置しており、２館における蔵書数及び年間貸出冊数は以下のとおりです。蔵書数は年々増加しており、令和６年度には 292,141 点となっています。年間貸出点数は、令和２年度に新型コロナウイルス感染症の影響から大きく減少しており、平成 30 年度をピークに減少傾向が続いています。令和６年度にはピーク時の約８割となる 310,229 点となっています。

【蔵書数及び年間貸出点数】

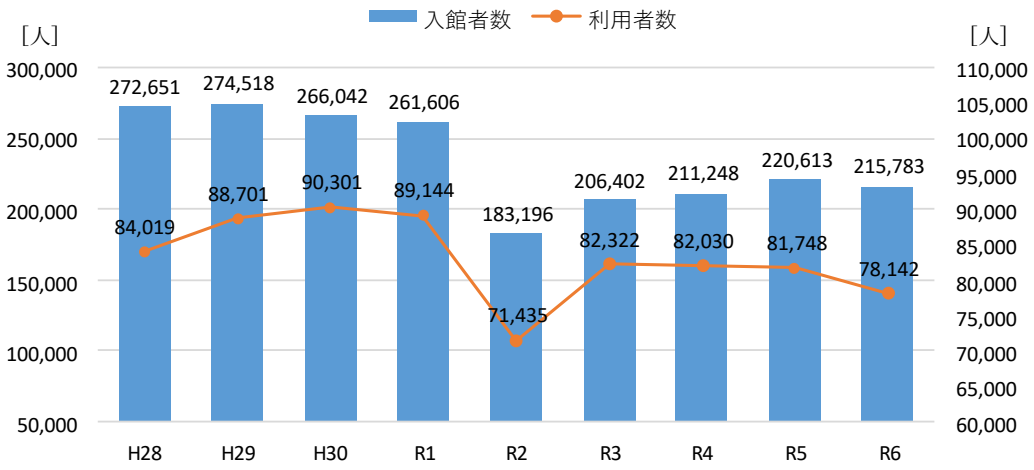


資料：図書館

②図書館の利用状況

図書館における年間入館者数は、令和２年度に新型コロナウイルス感染症の影響から大きく減少しましたが、その後は少しずつ増加傾向にあり、令和６年度には 215,783 人となっています。年間利用者数は減少傾向にあり、令和６年度には 78,142 人となっています。

【入館者数及び利用者数】

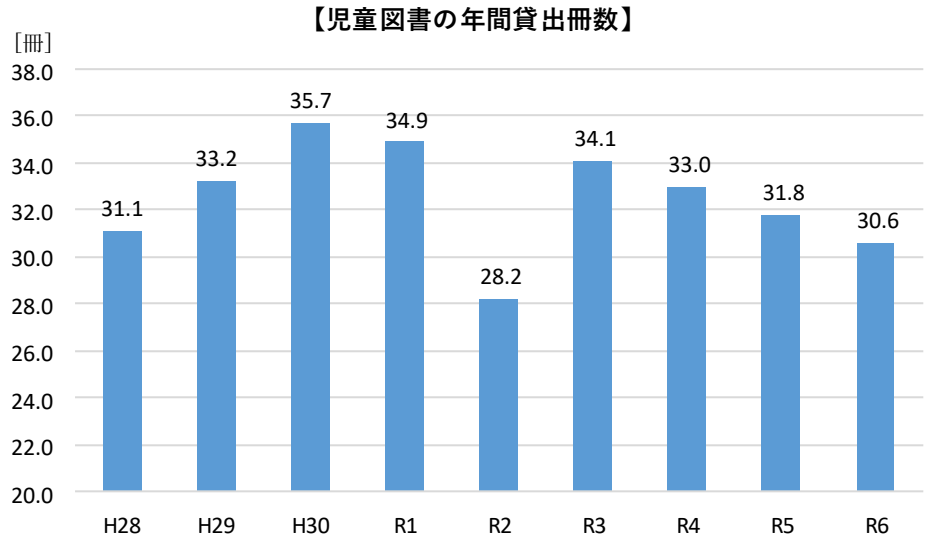


資料：図書館

⑵ 子ども読書活動の状況

①児童図書の貸出状況

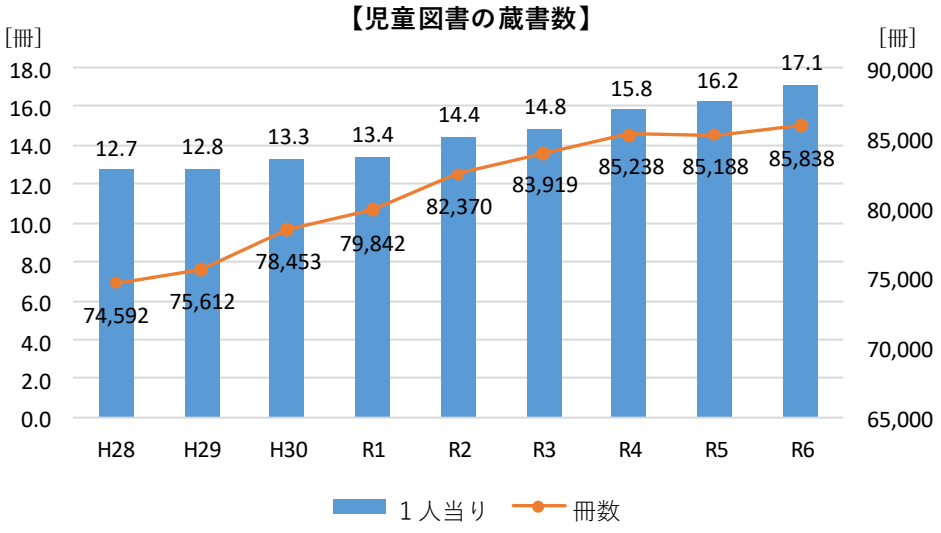
児童図書の年間貸出冊数（12 歳以下の子ども１人当り）は、平成 30 年度をピークに減少傾向にあり令和６年度には 30.6 冊となっています。令和８年度目標となる 34.6 冊以上を達成できるよう全ての子どもが自主的に読書活動を行うことができるよう取り組む必要があります。



資料：図書館

②児童図書の蔵書数

児童図書の蔵書冊数（12 歳以下の子ども１人当り）は、毎年増加を続けており、令和６年度には 17.1 冊となっています。また、蔵書冊数も同様に増加傾向であり、令和６年度には 85,838 冊となっています。

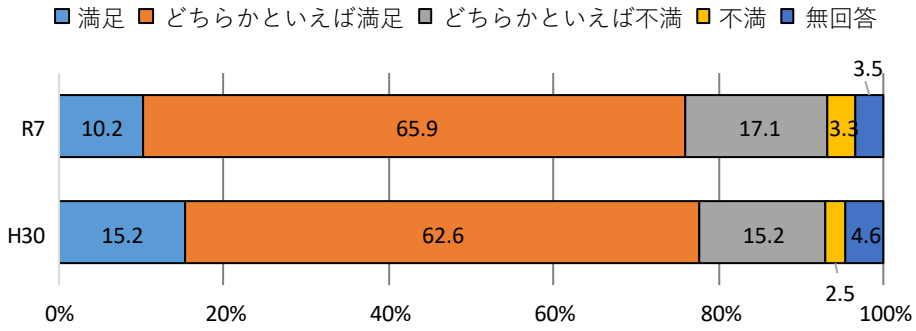


資料：図書館

7．市民意識等の把握

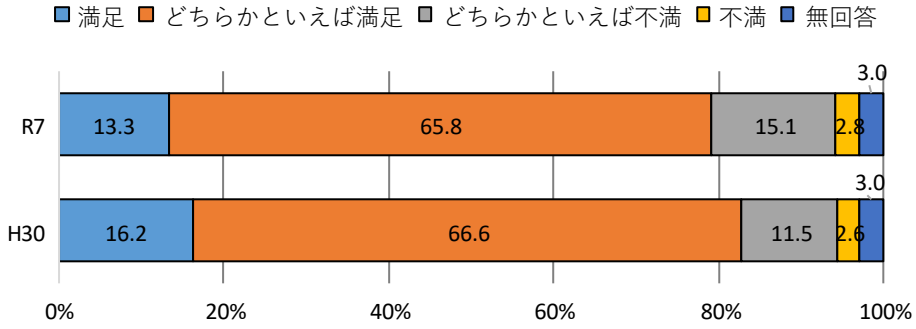
(1) 市民の意識

①子育てしやすいまちだと思いますか



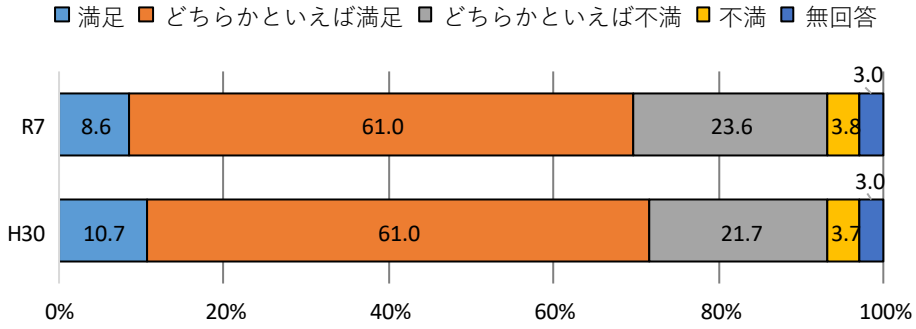
満足度は77.8%から76.1%に1.7ポイント低下している。

②安心して子どもを育てられるまちだと思いますか



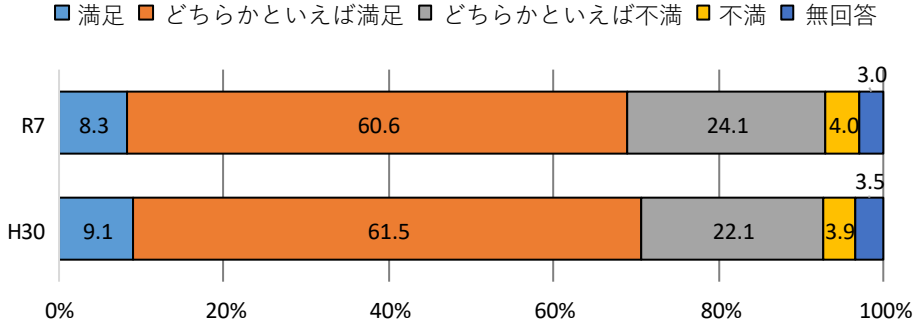
満足度は82.8%から79.1%に3.7ポイント低下している。

③子どもが安全・安心に通うことのできる教育環境が整うまちだと思いますか



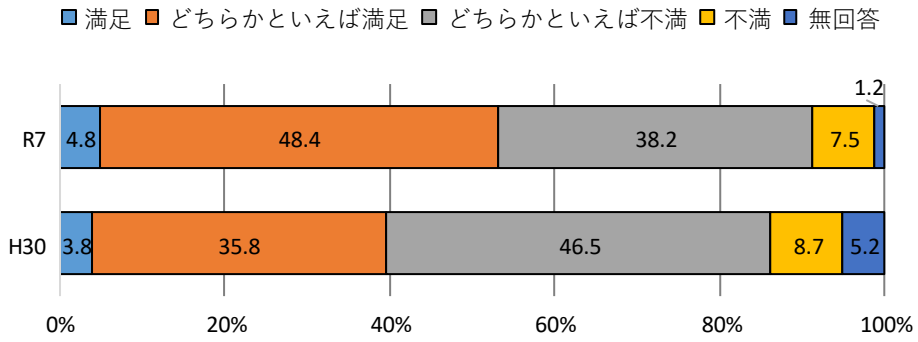
満足度は71.7%から69.6%に2.1ポイント低下している。

④学校・家庭・地域が一緒になって子どもを育むまちづくりが進められているまちだと思いますか



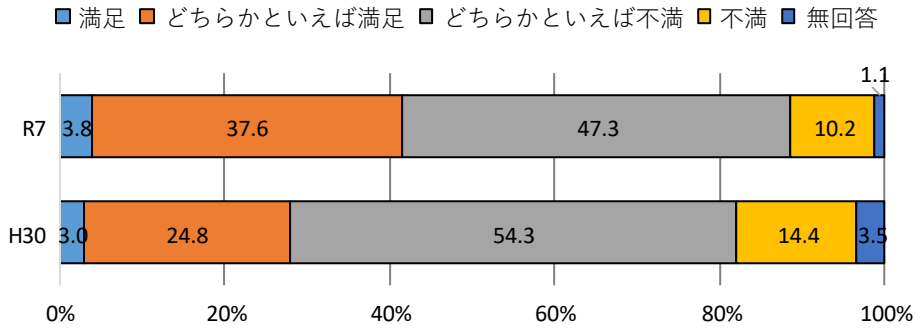
満足度は70.6%から68.9%に1.7ポイント低下している。

⑤生涯にわたり学習活動ができるまちだと思いますか



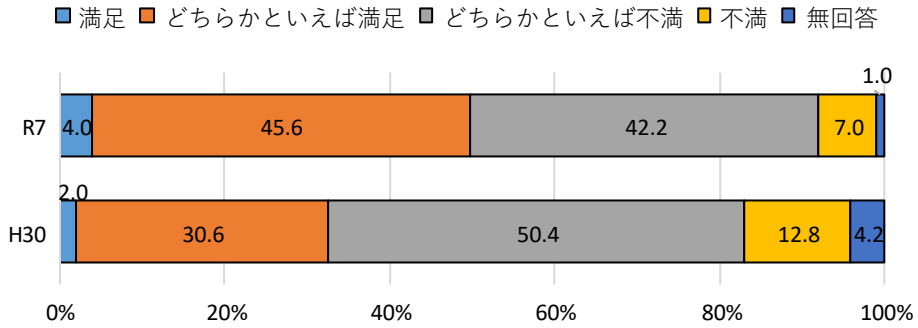
満足度は39.6%から53.2%に13.6ポイント上昇している。

⑥気軽に芸術文化にふれられるまちだと思いますか



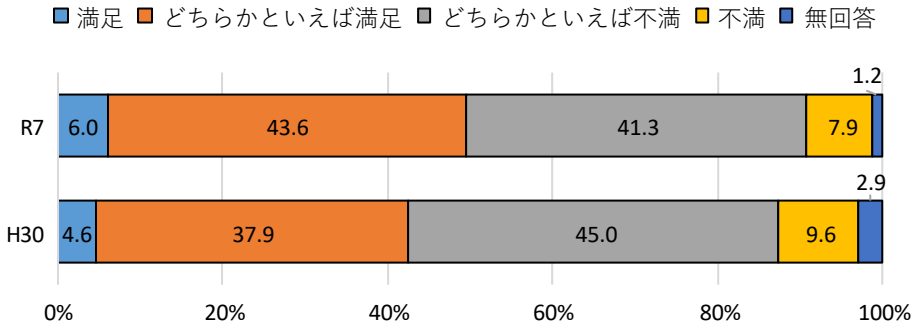
満足度は27.8%から41.4%に13.6ポイント上昇している。

⑦歴史・文化遺産が継承され活かされているまちだと思いますか



満足度は32.6%から49.6%に17ポイント上昇している。

⑧誰もが気軽にスポーツに取り組めるまちだと思いますか



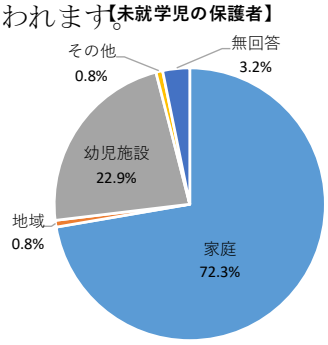
満足度は42.5%から49.6%に7.1ポイント上昇している。

資料：令和７年度市民アンケート調査（企画政策課）

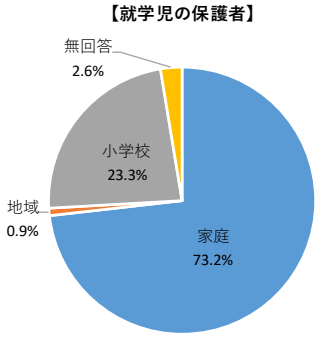
(2) 保護者の意識

①子育て（教育を含む）にもっとも影響すると思われる環境は

子育てに影響する環境として家庭と回答した保護者は、未就学児及び就学児とも約７割となっています。幼児施設や小学校と答えた保護者は約２割となっており、地域と答えた保護者は、１％にも満たない状況となっています。家庭や幼児施設、学校の役割は大きいものと思われます。



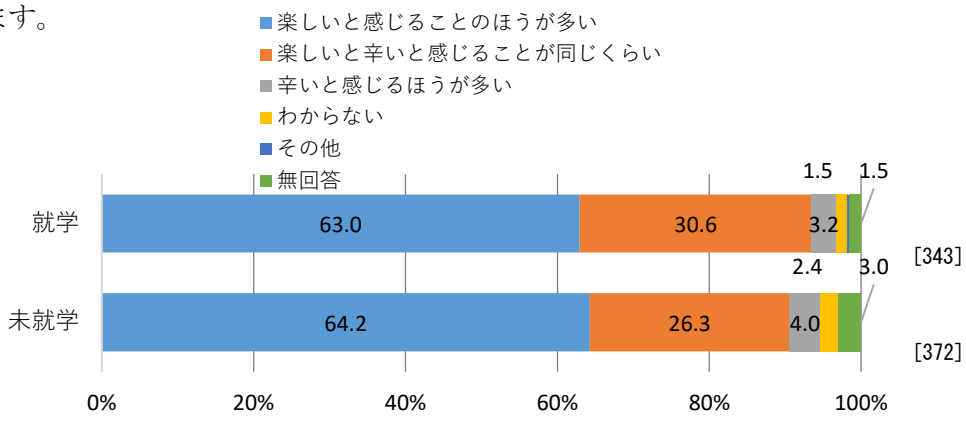
[372]



[343]

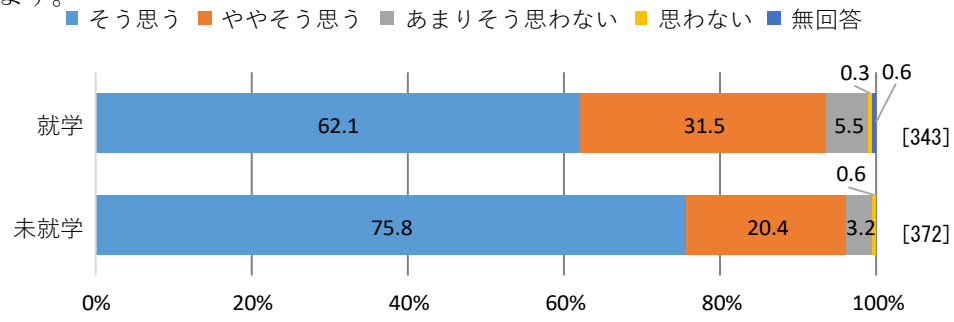
②子育てを楽しいと感じることが多いと思いますか

子育てを楽しいと感じる保護者は、就学児、未就学児ともに約６割となっています。なお、子育てが辛いと感じるほうが多い保護者は、就学児が 3.2%、未就学児が 4.0%となっています。



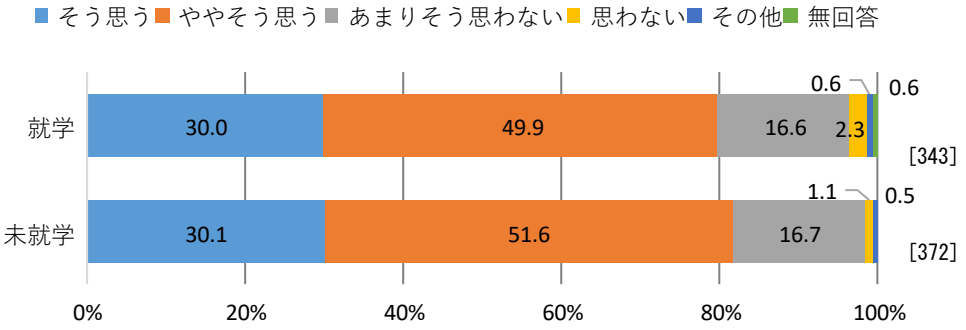
③子どもは心身ともに健やかに成長しているか

子どもが心身ともに健やかに成長していると思う保護者は、就学児、未就学児ともに９割を超えています。しかし、思わない保護者が就学児では 5.8%、未就学児では 3.8%となっています。



④菊川市は子どもを産み育てるのに安心な環境か

菊川市は子どもを産み育てるのに安心だと思う保護者は、就学児、未就学児ともに約８割となっています。しかし、思わない保護者が就学児では 18.9%、未就学児では 17.8%となっています。



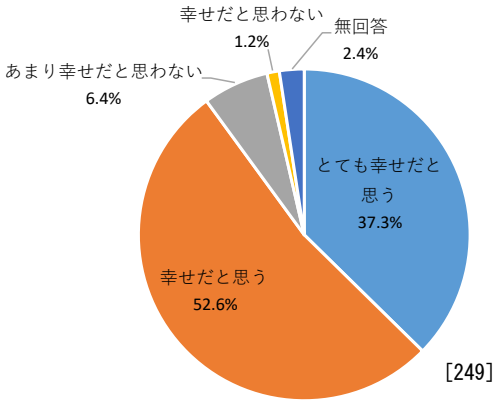
資料：令和６年度子ども計画に係るアンケート調査（未就学児及び就学児の保護者）こども政策課

(3) こども・若者の意識

①自分は幸せだと思いますか

「とても幸せだと思う」と「幸せだと思う」を合わせると約９割となっています。

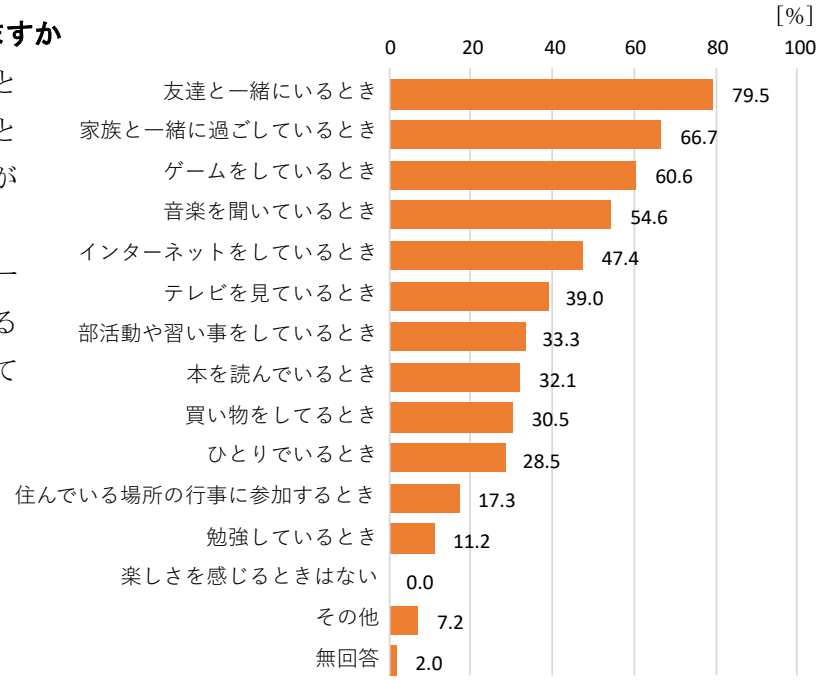
しかし、「あまり幸せだと思わない」と「幸せだと思わない」を合わせ 7.6%が幸せだと思わないと回答しています。更なるウェルビーイングの向上を図る必要があります。



②どんな時に楽しさを感じますか

幸せを感じるのは、「友達と一緒にいるとき」や「家族と一緒に過ごしているとき」が多くなっています。

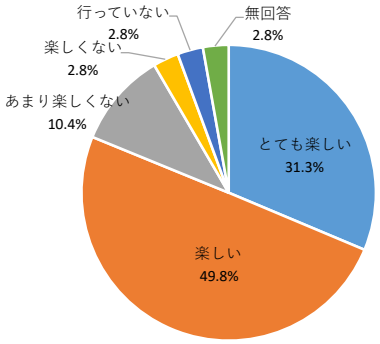
一方で、ゲームやインターネット、音楽、ひとりでいるときなどの割合も多くなっています。



③職場や学校は楽しいか

全体で最も多いのは「楽しい」で 49.8%、次いで「とても楽しい」で 31.3%となっており合わせると約８割が楽しいとなっています。

しかし、「あまり楽しくない」が 10.4%、「楽しくない」が 2.8%と合わせて 13.2%が楽しくないと回答しています。

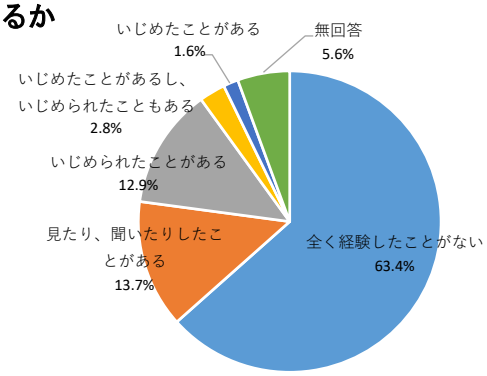


[249]

④学校、クラブや塾でいじめを経験したことがあるか

全体で最も多いのは「いじめは、全く経験したことがない」で 63.5%、次いで「いじめを見たり、聞いたりしたことがある」13.7%となっています。

なんらかのいじめの経験があるのは、約３割となっています。



[249]

資料：令和６年度こども計画に係るアンケート調査（こども政策課）

（小学５年生、中学２年生、18 歳から 24 歳の方）